

538,658

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

Rec'd PCT/PTO 10 JUN 2005

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

10/538658

(43) 国際公開日
2004年6月24日 (24.06.2004)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2004/053736 A1

(51) 国際特許分類:

G06F 17/30

(21) 国際出願番号:

PCT/JP2003/015927

(22) 国際出願日: 2003年12月12日 (12.12.2003)

(25) 国際出願の言語:

日本語

(26) 国際公開の言語:

日本語

(30) 優先権データ:

特願2002-361540

2002年12月12日 (12.12.2002) JP

特願2003-285030 2003年8月1日 (01.08.2003) JP

(71) 出願人(米国を除く全ての指定国について): ソニー株式会社 (SONY CORPORATION) [JP/JP]; 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 Tokyo (JP).

(72) 発明者: および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 宮寄 充弘 (MIYAZAKI,Mitsuhiro) [JP/JP]; 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP). 山本 則行 (YAMAMOTO,Noriyuki) [JP/JP]; 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP). 斎藤 真里 (SAITO,Mari) [JP/JP]; 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP). 小池 宏幸 (KOIKE,Hiroyuki) [JP/JP]; 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 稲本 義雄 (INAMOTO,Yoshio); 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目11番18号711ビルディング4階 Tokyo (JP).

[続葉有]

(54) Title: INFORMATION PROCESSING DEVICE AND METHOD, RECORDING MEDIUM, AND PROGRAM

(54) 発明の名称: 情報処理装置および方法、記録媒体、並びにプログラム

a1 「ジャンル」, 「出演者」	a2 グループID
b バラエティ, タレントA	XXXX
c ニュース, タレントA	XXXX
d 映画, タレントA	XXXX
:	
e バラエティ, タレントB	XXXX
f ニュース, タレントB	XXXX
g 映画, タレントB	XXXX
:	

a1..."GENRE", "PERFORMER"
 a2...GROUP ID
 b...VARIETY, TALENT A
 c...NEWS, TALENT A
 d...MOVIE, TALENT A
 e...VARIETY, TALENT B
 f...NEWS, TALENT B
 g...MOVIE, TALENT B

(57) Abstract: An information processing device and method, a recording medium, and a program for appropriately generating taste information based on programs viewed continuously and programs viewed discontinuously and recommending a program corresponding to a user taste. A taste information extraction section (101) extracts program taste information based on meta data on the program and records a program viewing history. The taste information on the program viewed firstly is recorded as special program taste information. Moreover, user taste information is generated according to program taste information on a program whose viewing count exceeds a threshold value. A control section (103) sets reservation for automatic recording of a program whose viewing count exceeds the threshold value. When the reservation of automatic recording is released, a taste information update section (102) modifies the user taste information according to the meta data on the program of the time whose reservation has been released.

(57) 要約: 本発明は、連続して視聴される番組と、非連続的に視聴される番組に基づく嗜好情報を適正に生成し、よりユーザの嗜好に合う番組を推薦できるようする情報処理装置および方法、記録媒体、並びにプログラムに関する。嗜好情報抽出部101で番組のメタデータに基づく番組嗜好情報を抽出し、番組の視聴履歴を記録する。初めて視聴された番組の嗜好情報は、特殊番組嗜好情報として記録される。また、視聴回数が閾値を超える番組の番組嗜好情報に基づいて、ユーザ嗜好情報が生成される。制御部103が、視聴回数が閾値を超える番組について自動録画の予約設定を行う。自動録画の予約が解除された場合、嗜好情報更新部102が、予約が解除された回の番組のメタ

WO 2004/053736 A1

データに基づいて、ユーザ嗜好情報を変更する。



(81) 指定国(国内): CN, KR, US.

添付公開書類:
— 国際調査報告書

(84) 指定国(広域): ヨーロッパ特許(AT, BE, BG, CH, CY,
CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC,
NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される
各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語
のガイダンスノート」を参照。

明細書

情報処理装置および方法、記録媒体、並びにプログラム

5 技術分野

本発明は、情報処理装置および方法、記録媒体、並びにプログラムに関し、特に、コンテンツの推薦を効率よく、かつ効果的に行うことができる情報処理装置および方法、記録媒体、並びにプログラムに関する。

10 背景技術

配信されるコンテンツから、ユーザの嗜好の合うコンテンツを検出し、そのコンテンツの情報を提供するコンテンツ推薦システムが存在する（例えば、特開2000-287189号公報参照）。

このシステムでは、例えば、ユーザがよく利用するコンテンツの属性（例えば、ジャンル）を検出し、その属性毎にコンテンツが推薦される。

しかしながら、コンテンツの属性は、コンテンツの編成等の事情に基づいてコンテンツの提供元により設定されているので、その属性毎の推薦では、推薦すべきコンテンツを効率的または効果的に検出することができない場合があった。

20 発明の開示

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、コンテンツの推薦を行う側が、コンテンツの属性を利用してコンテンツをグループ化し、グループ毎にコンテンツの推薦を行うことができるようとするものである。

本発明の情報処理装置は、配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の25 1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与し、コンテンツのグループ化を行うグループ化手段と、グループID毎にコンテンツの利用頻度を算出する算出手段

と、算出手段により算出された利用頻度に基づいて、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報を生成する生成手段と、生成手段により生成されたユーザ嗜好情報に基づいて、コンテンツを推薦する推薦手段とを備えることを特徴とする。

放送時間帯を表す属性項目と、少なくとも1つ以上の他の属性項目からなるグループ化項目が設定されており、グループ化手段は、そのグループ化項目に基づいてコンテンツのグループ化を行うことができる。

少なくとも放送時間帯を表す属性項目からなるグループ化項目と、他の属性項目からなるグループ化項目が設定されており、グループ化手段は、それらのグループ化項目に基づいてコンテンツのグループ化を行うことができる。

グループ化手段は、コンテンツの属性項目の内容を形態素解析し、その結果に基づいて、グループ化項目の内容の類似度を決定することができる。

生成手段は、グループに属するコンテンツの利用状態が所定の条件を満たしていないグループの利用頻度を、ユーザ嗜好情報の生成に利用しないようにすることができます。

推薦手段は、算出手段により算出された利用頻度が、予め設定された値より高いか否かを判定する判定手段と、判定手段により、利用頻度が、予め設定された値より高いと判定された場合、コンテンツの推薦情報に、頻繁に視聴されるコンテンツであることを表す定番フラグを設定する設定手段とを設けることができる。

生成手段は、算出手段により算出された利用頻度が予め設定された値より高いグループのコンテンツのメタデータを取得し、メタデータの特徴量を表すベクトルを抽出する抽出手段を備え、抽出手段により抽出されたベクトルに基づいて、嗜好情報を生成することができる。

生成手段は、算出手段により算出された利用頻度が予め設定された値より高いグループのコンテンツが、定番フラグが設定されたコンテンツ推薦情報に対応するコンテンツか否かを判定する定番判定手段を備え、定番判定手段により、コンテンツが、定番フラグが設定されたコンテンツ推薦情報に対応するコンテンツで

はないと判定された場合、抽出手段は、コンテンツのメタデータを取得し、メタデータの特徴量を表すベクトルを抽出することができる。

嗜好情報は、複数の属性とその属性の重要度を表す値により構成されるようにすることができる。

5 生成手段は、算出手段により算出された利用頻度に基づいて、コンテンツの熟知度を設定する熟知度設定手段を備え、熟知度に基づいて、嗜好情報の重要度を表す値に重み付けを行うことができる。

生成手段は、コンテンツの利用履歴に基づいて、利用回数が所定の値以下だけ利用されたコンテンツを検索する検索手段と、検索手段により検索されたコンテンツ 10 のメタデータに基づいて、特殊嗜好情報を生成する特殊嗜好情報生成手段とをさらに設けることができる。

嗜好情報または特殊嗜好情報の特徴量を表すベクトルを抽出する第1の抽出手段と、予め設定された期間に放送されるコンテンツのメタデータを取得し、メタデータの特徴量を表すベクトルを抽出する第2の抽出手段と、第1の抽出手段により抽出されたベクトルと第2の抽出手段により抽出されたベクトルの類似度を演算する演算手段とを備え、推薦手段は、類似度が高い順に、予め設定された数だけ第2の抽出手段により抽出されたベクトルを選択し、選択されたベクトルのメタデータに基づいて、コンテンツを推薦することができる。

本発明の情報処理方法は、配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の 20 1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与し、コンテンツのグループ化を行うグループ化ステップと、グループID毎にコンテンツの利用頻度を算出する算出ステップと、算出ステップの処理で算出された利用頻度に基づいて、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報を生成する生成ステップと、生成ステップの処理で生成 25 されたユーザ嗜好情報に基づいて、コンテンツを推薦する推薦ステップとを含むことを特徴とする。

本発明の記録媒体のプログラムは、配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与することによっての、コンテンツのグループ化を制御するグループ化制御ステップと、グループID毎のコンテンツの利用頻度の算出を制御する算出制御ステップと、算出制御ステップの処理で算出された利用頻度に基づいての、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報の生成を制御する生成制御ステップと、生成制御ステップの処理で生成されたユーザ嗜好情報に基づいての、コンテンツの推薦を制御する推薦制御ステップとを含むことを特徴とする。

本発明のプログラムは、配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与することによっての、コンテンツのグループ化を制御するグループ化制御ステップと、グループID毎のコンテンツの利用頻度の算出を制御する算出制御ステップと、算出制御ステップの処理で算出された利用頻度に基づいての、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報の生成を制御する生成制御ステップと、生成制御ステップの処理で生成されたユーザ嗜好情報に基づいての、コンテンツの推薦を制御する推薦制御ステップとを含むことを特徴とする。

本発明の情報処理装置および方法、並びにプログラムにおいては、配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDが付与され、コンテンツのグループ化が行われ、グループID毎にコンテンツの利用頻度が算出され、算出された利用頻度に基づいて、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報が生成され、生成されたユーザ嗜好情報に基づいて、コンテンツが推薦される。

図面の簡単な説明

図1は、本発明を適用したコンテンツ推薦システムの構成例を示している。

図2は、メタデータの例を示す図である。

図3は、コンテンツのグループ化を説明する図である。

図4は、コンテンツのグループ化を説明する他の図である。

5 図5は、グループIDが付されたメタデータの例を示す図である。

図6は、利用履歴の例を示す図である。

図7は、図1のコンテンツ推薦サーバの構成例を示すブロック図である。

図8は、図1のクライアント機器の構成例を示すブロック図である。

図9は、ユーザ嗜好情報生成処理を説明するフローチャートである。

10 図10は、利用頻度の算出方法を説明する図である。

図11Aは、利用頻度の算出方法を説明する他の図である。

図11Bは、利用頻度の算出方法を説明する他の図である。

図12は、利用状態の確認処理を説明する図である。

図13は、利用状態の確認処理を説明する他の図である。

15 図14は、利用状態の確認処理を説明する他の図である。

図15は、コンテンツ推薦情報生成処理を説明するフローチャートである。

図16は、コンテンツ推薦情報の表示例を示す図である。

図17は、他のコンテンツ推薦情報の表示例を示す図である。

図18は、タイトルグループ化処理1について説明するフローチャートである。

20 図19は、タイトルグループ化処理2について説明するフローチャートである。

図20は、タイトルグループ化処理3について説明するフローチャートである。

図21は、タイトルグループ化処理4について説明するフローチャートである。

図22は、定番組設定処理を説明するフローチャートである。

図23は、嗜好情報抽出処理1を説明するフローチャートである。

25 図24は、番組ベクトルの構成例を示す図である。

図25は、嗜好情報の構成例を示す図である。

図26は、嗜好情報抽出処理2を説明するフローチャートである。

- 図27は、嗜好情報抽出処理3を説明するフローチャートである。
- 図28は、嗜好情報変更処理を説明するフローチャートである。
- 図29は、特殊嗜好情報生成処理を説明するフローチャートである。
- 図30は、図7のCPUの機能的構成例を示すブロック図である。
- 5 図31は、推薦情報検索処理を説明するフローチャートである。
- 図32は、特殊推薦情報検索処理を説明するフローチャートである。

発明を実施するための最良の形態

- 図1は、本発明を適用したコンテンツ推薦システムの構成例を示している。
- 10 配信サーバ3は、ストリーミングデータデータベース1から、ストリーミングデータを取得し、インターネットその他のネットワークを含むネットワーク6を介して、クライアント機器5に配信する。配信サーバ3はまた、メタデータデータベース2から、コンテンツのメタデータを取得し、ネットワーク6を介して、コンテンツ推薦サーバ4に供給する。
- 15 メタデータは、コンテンツ毎に、例えば、図2に示すような、「放送開始時刻」、「放送終了時刻」、「放送局」、「ジャンル」、「タイトル」、「出演者名」、「番組内容」、および「キーワード」等のコンテンツの属性を表す項目から構成されている。
- 20 コンテンツ推薦サーバ4は、1個以上の項目で設定されたグループ化項目について、その内容（グループ化項目を構成する各項目の要素）が一定以上類似する（各項目の要素が、全部一致、一部一致、または所定の類似度を表す値が所定以上となる）コンテンツに同一のグループIDを付与する（同一のグループにグループ化する）。
- 25 メタデータの項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、および項目「放送終了時刻」からなるグループ化項目が設定されている場合、「8ch（放送局）, 00:00（放送開始時間）～06:00（放送終了時刻）」のコンテンツ（8

ch で、00：00～06：00 の間に放送される番組) には同一のグループ ID が付与される。

すなわちこのグループ化項目の下では、図 3 に示すように、グループ化項目を構成する項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、および項目「放送終了時刻」
5 の各要素の組み毎にコンテンツのグループ化がなされる。

また、メタデータの項目「ジャンル」および項目「出演者」からなるグループ化項目が設定されている場合、例えば、「バラエティ（ジャンル）、タレント A
（出演者）」のコンテンツ（バラエティで、タレント A が出演する番組）には同一のグループ ID が付与される。

10 すなわちこのグループ化項目の下では、図 4 に示すように、グループ化項目を構成する項目「ジャンル」および項目「出演者」の各要素の組み毎にコンテンツのグループ化がなされる。

なおグループ化項目が複数設定されている場合、1 個のコンテンツは、コンテンツの項目によっては、複数のグループに属することもあり得る。例えば、8
15 ch で、00：00～06：00 の間に放送され、バラエティで、タレント A が出演する番組には、「8ch（放送局）、00：00（放送開始時間）～06：
00（放送終了時刻）」のグループ ID（図 3）と、「バラエティ（ジャンル）、タレント A（出演者）」のグループ ID（図 4）が付与され、それぞれのグループに属することになる。

20 コンテンツ推薦サーバ 4 は、このようにグループ ID が設定されたメタデータ（例えば、図 5）を、適宜、クライアント機器 5 に送信する。

コンテンツ推薦サーバ 4 はまた、クライアント機器 5 から、コンテンツのグループ ID を含む利用履歴を適宜取得し、その利用履歴に基づいて、グループ毎の利用頻度を算出する。そしてコンテンツ推薦サーバ 4 は、算出したその利用頻度をユーザの嗜好を表すものとして利用し、グループ毎にコンテンツの推薦を行う。
25 例えば、高い利用頻度のグループに属するコンテンツに関する情報が、コンテンツ推薦情報としてクライアント機器 5 に送信される。

クライアント機器 5 は、配信サーバ 3 から配信されてきたコンテンツを利用するが、その利用履歴として、利用したコンテンツの、例えば図 6 に示すようなメタデータ（グループ ID が設定されたもの）を、適宜、コンテンツ推薦サーバ 4 に供給する。

5 クライアント機器 5 は、コンテンツ推薦サーバ 4 から供給されたコンテンツ推薦情報を表示してユーザに提示する。ユーザは、それを参照することにより、自分の嗜好にあったコンテンツを選択することができる。

なお、ここでの配信サーバ 3 乃至クライアント機器 5 の通信は、ネットワーク 6 を介して行われているが、それぞれ直接通信する構成にすることもできる。

10 図 7 は、コンテンツ推薦サーバ 4 の構成例を示している。CPU (Central Processing Unit) 1 1 は、ROM (Read Only Memory) 1 2 に記憶されている、例えば、コンテンツ推薦用のプログラム等に従って所定の処理を実行する。RAM (Random Access Memory) 1 3 には、CPU 1 1 がその処理を実行する上において必要なデータなどが適宜記憶される。

15 CPU 1 1 にはバス 1 4 を介して入出力インターフェース 1 5 が接続されている。入出力インターフェース 1 5 には、キーボード、マウスなどよりなる入力部 1 6、LCD (Liquid Crystal Display) などよりなる出力部 1 7、メタデータ等を記憶する記憶部 1 8、およびネットワーク 6 を介して配信サーバ 3 またはクライアント機器 5 との通信を行う通信部 1 9 が接続されている。

20 入出力インターフェース 1 5 には、ドライブ 2 0 が適宜接続され、CPU 1 1 は、そこに装着される磁気ディスク 3 1、光ディスク 3 2、光磁気ディスク 3 3、または半導体メモリ 3 4 との間でデータの授受を行う。

なお、CPU 1 1 の機能的構成例として、例えば、ユーザの嗜好情報を取得する嗜好情報取得部、配信サーバ 3 から番組のメタデータを取得するメタデータ取得部、およびコンテンツの推薦情報を生成する推薦情報生成部により構成されるようにすることも可能である。

図8は、クライアント機器5の構成例を示している。この構成は、コンテンツ推薦サーバ4の構成と基本的に同様であるので、その説明は省略する。

次に、ユーザ嗜好情報を生成する場合のコンテンツ推薦サーバ4の動作を、図9のフローチャートを参照して説明する。

5 ステップS1において、コンテンツ推薦サーバ4のCPU11は、ユーザ嗜好情報を生成するタイミングであるか否かを判定し、そのタイミングであると判定した場合、ステップS2に進む。例えば、クライアント機器5からコンテンツ推薦情報（後述）の提供が要求されたとき、または予め決められた時期（例えば、毎週所定の時刻）が来たとき、ステップS2に進む。

10 ステップS2において、CPU11は、通信部19を介して、クライアント機器5から、所定の利用履歴を取得する。この例の場合、1週間前からの間に利用されたコンテンツのメタデータ（グループIDが設定されている）が取得される。CPU11は、グループ毎のコンテンツの利用頻度（回数）を算出する。

15 項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、および項目「放送終了時刻」からなるグループ化項目が設定されている場合、各メタデータには、そのグループ化項目の内容（グループ化項目を構成する各項目の要素の組み）に応じたグループIDが記述されているので、図10に示すように、その内容（各項目の要素の組み）毎にコンテンツの利用頻度（回数）が算出される。

20 図10が示すグループ毎の利用回数からは、8chで、20:00~21:00で放送される番組と、10chで、19:00~20:00で放送される番組が最も多く視聴され（各7回）、それに続いて8chで、22:00~23:00の間に放送される番組が次に視聴（6回）されていることがわかる。

25 また項目「ジャンル」および項目「出演者」からなるグループ化項目が設定されている場合、各メタデータには、そのグループ化項目の内容（グループ化項目を構成する各項目の要素の組み）に応じたグループIDが記述されているので、図11Aに示すように、その内容（各項目の要素の組み）毎にコンテンツの利用頻度（回数）が算出される。

図 1 1 A がグループ毎の利用回数からは、タレント D が出演するバラエティ番組が最も多く視聴され（10 回）、それに続いてタレント D が出演するニュース番組（8 回）とタレント C が出演するバラエティ番組（5 回）が多く視聴されていることがわかる。

5 なお、利用回数は、コンテンツの配信数に応じて多くなる可能性があるので、そのままではユーザの嗜好を正確に対応しない。そのため、ステップ S 2 で取得された利用履歴に対応する期間中に配信されたコンテンツ数で利用回数が正規化される。

例えれば、例えば図 1 1 の例の場合、タレント D が出演するバラエティ番組が、
10 その期間（この例の場合、1 週間）の間に 10 本配信され、タレント D が出演するニュース番組が、その期間の間に 100 本配信され、タレント C が出演するバラエティ番組が、その期間の間に 80 本配信された場合、図 1 1 A の利用回数は、図 1 1 B に示すように、正規化される。このように利用回数を正規化することでユーザの嗜好を適切に対応した利用頻度を得ることができる。

15 図 9 に戻り、ステップ S 3において、コンテンツ編集サーバ 4 の CPU 1 1 は、グループ化項目毎に、所定の閾値以上の利用回数（利用頻度）が得られたグループ（のグループの ID）を検出する。

例えれば、項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、および項目「放送開始時刻」からなるグループ化項目に対する閾値が値 7 である場合、図 1 0 の例では、
20 「8ch, 20:00～21:00」、および「10ch, 19:00～20:00」の 2 つのグループが検出される。

また項目「ジャンル」および項目「出演者」からなるグループ化項目に対する閾値が値 0.06 である場合、図 1 1 B の例では、「バラエティ、タレント D」、「ニュース、タレント D」、および「バラエティ、タレント C」の 3 つのグループが検出される。
25

次に、ステップ S 4において、CPU 1 1 は、ステップ S 3 で検出した各グループのコンテンツがユーザの嗜好に合っているか否かを判定する。

例えば、そのグループに属するコンテンツの配信リストに基づいて、いまから遡って所定の回数（例えば、3回）連続して利用されなかったか否かが確認され、その回数連続して利用されなかった場合、そのグループのコンテンツはユーザの嗜好に合っていないと判定と判定される。

- 5 図13に示すように、「バラエティ、タレントD」のグループの番組が3回連続して視聴されなかったとき、「バラエティ、タレントD」のグループのコンテンツは、ユーザの嗜好に合わないと判定される。

なお、図12に示すように、グループ「8ch, 20:00～21:00」のグループの、いまから遡って最も最近の番組Aは視聴されなかつたが、その前に10配信された番組Bは視聴されているとき（視聴されないことが3回連続していないとき）、「8ch, 20:00～21:00」のグループのコンテンツは、ユーザの嗜好に合わないとは判定されない（合っていると判定される）。

- また図14に示すように、過去に、所定の回数（例えば、3回）連続して利用されているとき、そのグループのコンテンツを、ユーザの嗜好にあっていると判定することもできる。

ステップS5において、CPU11は、ステップS4での判定結果から、ユーザの嗜好に合うコンテンツのグループを検出する。

ステップS6において、CPU11は、ステップS5で検出したグループのグループIDを、ユーザ嗜好情報として、記憶部18に記憶する。

- この例の場合、項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、および項目「放送終了時刻」からなるグループ化項目における「8ch, 20:00～21:00」と「10ch, 19:00～20:00」のグループのグループID、および項目「ジャンル」および項目「出演者」からなるグループ化項目における「ニュース、タレントD」と「バラエティ、タレントC」のグループのグループIDが、ユーザ嗜好情報として記憶部18に記憶される。

次に、コンテンツ推薦情報を生成する場合のコンテンツ推薦サーバ4の動作を、図15のフローチャートを参照して説明する。

ステップS21において、コンテンツ推薦サーバ4のCPU11は、クライアント機器5から、コンテンツ推薦情報の提供が要求されるまで待機し、その要求があったとき、ステップS22に進み、記憶部18から上述したようにして生成したユーザ嗜好情報を取得する。

5 ステップS23において、CPU11は、いまから配信されるコンテンツのメタデータ（グループIDが設定されているもの）から、ユーザ嗜好情報としてのグループIDと同じグループIDが設定されているメタデータを抽出する。CPU11は、抽出したメタデータからコンテンツ推薦情報を生成する。

なお、ユーザ嗜好情報として記憶されているグループIDが複数ある場合には、
10 いずれのグループIDも付与されているコンテンツのメタデータが抽出されるよう
うにすることができる。

15 ステップS24において、CPU11は、通信部19を介して、ステップS23で生成したコンテンツ推薦情報を、クライアント機器5に送信する。クライアント機器5は、コンテンツ推薦サーバ4から送信されてきたコンテンツ推薦情報を出力部57に表示する。

図16および図17は、コンテンツ推薦情報の表示例を示している。

図16の例では、項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、および項目「放送終了時刻」からなるグループ化項目の「8ch, 20:00~21:00」および「10ch, 19:00~20:00」のグループに属する番組の情報（タイトル等）がそれぞれ表示されている。

20 図17の例では、項目「ジャンル」および項目「出演者」からなるグループ化項目の「ニュース, タレントD」および「バラエティ, タレントC」のグループに属する番組に関する情報（タイトル等）がそれぞれ表示されている。なお、各グループの番組の情報が表示されているウインドウは、表示画面の大きさによつては、図17に示すように一部重なるように表示されるようにすることができる。

25 ユーザは、このように表示されたコンテンツ推薦情報を参照して、視聴する番組を選択することができる。

以上のように、ユーザの嗜好を把握するための利用頻度を、グループ ID を利用してグループ毎に算出するようにしたので、メタデータの項目毎に利用頻度を算出する場合に比べ、その計算量を少なくすることができる。

また、コンテンツ推薦情報がグループ毎にまとまって表示されるようにしたの
5 で、表示スペースが小さいクライアント機器 5においても適切にコンテンツ推薦情報
を表示することができる。

また、以上においては、メタデータの項目「放送局」、項目「放送開始時刻」、
および項目「放送終了時刻」、並びに項目「ジャンル」および項目「出演者」を
利用してグループ化を行ったが、項目「タイトル」や項目「内容」など他の項目
10 を利用してグループ化を行うこともできる。その結果、例えば、再放送やスペシ
シャル版の番組をオリジナルの番組と同じグループに属するコンテンツとして扱う
ことができるので、オリジナルであろうと、再放送されたものであろうと、その
番組が視聴されれば、その利用履歴をユーザ嗜好情報生成に反映する能够
する。

15 ここで、図 18 のフローチャートを参照して、項目「タイトル」を利用してグ
ループ化を行う処理（項目「タイトル」からなるグループ化項目によるグループ
化処理）（タイトルグループ化処理 1）について説明する。

ステップ S 6 1において、コンテンツ推薦サーバ 4 は、メタデータから、タイ
トルを抽出する。

20 ステップ S 6 2において、コンテンツ推薦サーバ 4 は、タイトルを形態素解析
し、単語に分解する。

例えばメタデータに含まれている映画の題名が「東海道三谷怪談」であった場
合、これがタイトルとして形態素解析され、「東海道」、「三谷」、「怪談」の
3 つの単語が得られる。

25 ステップ S 6 3において、コンテンツ推薦サーバ 4 は、解析された単語、もし
くは、複数の単語から構成される単語群のうちのいずれかを抽出して、記憶部 1
8 から、抽出された単語、または単語群に対応するグループ ID を抽出する。

ここで、複数の単語から構成される単語群とは、形態素解析により得られた単語の組み合わせにより生成される単語群であり、例えば、形態素解析により得られた単語が「東海道」、「三谷」、「怪談」である場合、単語群は、「東海道・三谷」、「東海道・怪談」、「三谷・怪談」となる。

- 5 ステップS 6 4において、コンテンツ推薦サーバ4は、グループIDが抽出されたか否かを判断する。

ステップS 6 4において、対応するグループIDが抽出されなかつたと判断された場合、抽出された単語、もしくは、複数の単語から構成される単語群には、まだグループIDが付けられていないので、ステップS 6 5において、抽出された単語、もしくは、複数の単語から構成される単語群に新たなグループIDを割り当てる。また、コンテンツ推薦サーバ4は、単語、もしくは、複数の単語から構成される単語群と、それに対応するグループIDを記憶する。

- 10 ステップS 6 4において、対応するグループIDが抽出されたと判断された場合、または、ステップS 6 5の処理の終了後、ステップS 6 6において、コンテンツ推薦サーバ4は、タイトルを構成する全ての単語、もしくは、複数の単語から構成される単語群についてグループIDを抽出したか否かを判断する。

ステップS 6 6において、タイトルを構成する全ての単語、もしくは、複数の単語から構成される単語群についてグループIDを抽出していないと判断された場合、処理は、ステップS 6 3に戻り、それ以降の処理が繰り返される。

- 15 ステップS 6 6において、タイトルを構成する全ての単語、もしくは、複数の単語から構成される単語群についてグループIDが抽出されたと判断された場合、ステップS 6 7において、コンテンツ推薦サーバ4は、メタデータに、抽出されたまたは割り当てたグループIDを対応付けて、処理が終了される。

なお、類似したタイトルの番組を、同一のグループとするようにしても良い。25 例えば、タイトル「2年A組銀八先生」の連続ドラマと、タイトル「2年A組銀八先生スペシャル」の特別番組とを、同一のグループとしてグループ化することができるよう、タイトルを構成する単語の形態素解析結果を基に、例えば、2

週間、1ヶ月、半年などの所定の期間の番組タイトルで、単語の一致率を総当たりで算出し、単語の一致率が所定の値以上である場合、同一グループとするようにしてもよい。

次に、図19のフローチャートを参照して、タイトルを構成する単語の一致率
5 によりグループ化を実行するタイトルグループ化処理2（項目「タイトル」からなるグループ化項目による他のグループ化処理）について説明する。

ステップS401およびステップS402において、図18を用いて説明した、
ステップS61およびステップS62と同様の処理が実行される。すなわち、コンテンツ推薦サーバ4は、メタデータから、タイトルを抽出して形態素解析し、
10 単語に分解する。

ステップS403において、コンテンツ推薦サーバ4は、解析された単語を基に、タイトル間の単語の一致度、すなわち、単語が一致している割合を示す一致率を算出する。

具体的には、タイトル「2年A組銀八先生」と、タイトル「2年A組銀八先生
15 スペシャル」とが、それぞれ、「2」「年」「A」「組」「銀八」「先生」と、「2」「年」「A」「組」「銀八」「先生」「スペシャル」とに形態素分析された場合、この2つの番組のタイトルを構成する単語の一致率は、6／7で85.7%となる。

ステップS404において、コンテンツ推薦サーバ4は、単語が、例えば、70%などの所定の値以上一致しているか否かを判断する。この、一致率の閾値は、
20 70%以外のいかなる数値であっても良いことは言うまでもない。

ステップS404において、単語が、70%などの所定の値以上一致していると判断された場合、ステップS405において、コンテンツ推薦サーバ4は、それらの番組に、同一のグループIDを対応付ける。また、コンテンツ推薦サーバ
25 4は、一致した単語、または、単語群と、それに対応するグループIDを記憶する。

ステップS404において、70%などの所定の値以下の一致率であると判断された場合、または、ステップS405の処理の終了後、ステップS406において、コンテンツ推薦サーバ4は、タイトルの総当たりが終了したか否かを判断する。

5 ステップS406において、タイトルの総当たりが終了していないと判断された場合、処理は、ステップS403に戻り、それ以降の処理が繰り返される。

ステップS406において、タイトルの総当たりが終了したと判断された場合、処理が終了される。

このような処理により、タイトルを構成する単語の一致率を基にしたグループIDが対応付けられるので、例えば、連続ドラマとスペシャル番組などの類似したタイトルの番組を、同一のグループとして処理させるようにすることができる。

また、タイトルを構成する単語の一致率を基にグループを決定することにより、例えば、メタデータにおいて、数字の半角と全角、または、英字の半角と全角、もしくは、大文字と小文字などの表記ゆれがあった場合にも、同一15 タイトルの番組を、同一のグループとして検出することが可能となる。

また、単語の一致率に加えて、例えば、放送局や番組ジャンル、あるいは、放送開始時刻などを、グループ化の条件に加えるようにしても良い。例えば、ニュース番組などにおいては、タイトルが、「ニュース」を含む少ない単語によって構成されているので、図19を用いて説明した処理では、異なる放送局の異なる20 形態のニュース番組であっても、同一のグループとして検出されてしまう恐れがあるので、単語の一致率に加えて、放送局も一致した場合、同一グループとするようにしても良い。

次に、図20のフローチャートを参照して、放送局の一致を条件に加えて、タイトルを構成する単語の一致率によりグループ化を実行するタイトルグループ化25 処理3（項目「タイトル」と項目「放送局」からなるグループ化項目によるグループ化処理）について説明する。

ステップ S 421 乃至ステップ S 424において、図 19 を用いて説明した、
ステップ S 401 乃至ステップ S 404 と同様の処理が実行される。すなわち、
コンテンツ推薦サーバ 4 は、メタデータから、タイトルを抽出して形態素解析し、
単語に分解する。そして、コンテンツ推薦サーバ 4 は、解析された単語を基に、
5 タイトル間の単語の一致度を算出し、単語が、例えば、70%などの所定の値以上一致しているか否かを判断する。

ステップ S 424において、単語が、70%などの所定の値以上一致している
と判断された場合、ステップ S 425において、コンテンツ推薦サーバ 4 は、そ
れらの番組の放送局が一致しているか否かを判断する。

10 ステップ S 425において、これらの番組の放送局が一致していると判断され
た場合、ステップ S 426において、コンテンツ推薦サーバ 4 は、それらの番組
に、同一のグループ ID を対応付ける。また、コンテンツ推薦サーバ 4 は、一致
した単語、または、単語群と、それに対応する放送局およびグループ ID を記憶
する。

15 ステップ S 424において、70%などの所定の値以下の一致率であると判断
された場合、ステップ S 425において、これらの番組の放送局が一致していない
ないと判断された場合、または、ステップ S 426 の処理の終了後、ステップ S 4
27において、コンテンツ推薦サーバ 4 は、タイトルの総当たりが終了したか否か
を判断する。

20 ステップ S 427において、タイトルの総当たりが終了していないと判断された
場合、処理は、ステップ S 423 に戻り、それ以降の処理が繰り返される。

ステップ S 427において、タイトルの総当たりが終了したと判断された場合、
処理が終了される。

25 このような処理により、放送局の一致とタイトルを構成する単語の一致率を基
にしたグループ ID が対応付けられるので、例えば、類似したタイトルの番組を、
同一のグループとする場合に、他局のニュース番組を同一のグループとするよう
なことを防ぐことができる。

なお、図20においては、タイトルを構成する単語の一致率以外に、同一の放送局であるか否かを条件として、グループ化を行うものとして説明したが、放送局以外の、例えば、放送時間帯やジャンルなどを、タイトルを構成する単語の一致率以外の条件として、グループ化を実行するようにも良いことは言うまで

5 もない。

更に、例えば、連続ドラマや帯番組の放送開始時刻が、スポーツ中継や特別番組などのためにずれた場合においても、同一グループとして検出可能なように、
10 タイトルを構成する単語の一致率以外の条件を、放送時刻が、例えば、1時間などの所定の時間範囲内のずれで一致しているか否かとして、グループ化を実行するようにも良い。

図21のフローチャートを参照して、放送時刻が、所定の時間範囲内のずれで一致しているか否かを条件に加えて、タイトルを構成する単語の一致率によりグループ化を実行するタイトルグループ化処理4（項目「タイトル」と項目「放送開始時刻」からなるグループ化項目によるグループ化処理）について説明する。

15 ステップS441乃至ステップS444において、図19を用いて説明した、
ステップS401乃至ステップS404と同様の処理が実行される。すなわち、
コンテンツ推薦サーバ4は、メタデータから、タイトルを抽出して形態素解析し、
20 単語に分解する。そして、コンテンツ推薦サーバ4は、解析された単語を基に、
タイトル間の単語の一致度を算出し、単語が、例えば、70%などの所定の値以上一致しているか否かを判断する。

ステップS444において、単語が、70%などの所定の値以上一致していると判断された場合、ステップS445において、コンテンツ推薦サーバ4は、それらの番組の放送開始時刻が、例えば、1時間などの所定の範囲内のずれで一致しているか否かを判断する。

25 ステップS445において、それらの番組の放送開始時刻が所定の範囲内のずれで一致していると判断された場合、ステップS446において、コンテンツ推薦サーバ4は、それらの番組に、同一のグループIDを対応付ける。また、コン

コンテンツ推薦サーバ4は、一致した単語、または、単語群と、それに対応する放送開始時刻の範囲、およびグループIDを記憶する。

5 ステップS444において、70%などの所定の値以下の一致率であると判断された場合、ステップS445において、それらの番組の放送開始時刻が所定の範囲以上にずれていると判断された場合、または、ステップS446の処理の終了後、ステップS447において、コンテンツ推薦サーバ4は、タイトルの総当たりが終了したか否かを判断する。

10 ステップS447において、タイトルの総当たりが終了していないと判断された場合、処理は、ステップS443に戻り、それ以降の処理が繰り返される。

15 ステップS447において、タイトルの総当たりが終了したと判断された場合、処理が終了される。

このような処理により、放送開始時刻の所定の範囲内のずれを含む一致と、タイトルを構成する単語の一致率を基にしたグループIDが対応付けられるので、例えば、類似したタイトルの番組を同一のグループとする場合に、特別番組などによる放送時刻の変更のために、同一グループとして検出されるべき番組が、同一グループとして検出されないようなことを防ぐことができる。

20 なお、以上においては、コンテンツ推薦サーバ4が、ユーザ嗜好情報生成処理（図9）およびコンテンツ推薦情報処理（図15）を行う場合を例として説明したが、クライアント機器5が、コンテンツ推薦サーバ4から供給されるグループIDが設定されたメタデータ（グループ化情報）を利用して、自分自身がグループ毎の利用頻度を算出してユーザ嗜好情報を生成し、それに基づいてコンテンツ推薦情報を生成することもできる。

25 また、頻繁に視聴される番組をいわゆる定番の番組として推薦し、推薦された番組が自動的に、視聴または録画されるようになることもできる。図22を参照して定番番組設定処理について説明する。この処理は、コンテンツ推薦サーバ4において、図15を参照して上述したコンテンツ推薦情報生成処理を実行するのに先立って（事前に）実行される。

ステップ S 501において、CPU11は、利用履歴を分析する。このとき、図 9のステップ S 2の場合と同様に、クライアント機器5から、所定の期間に利用されたコンテンツのメタデータ（グループIDが設定されている）が取得され、グループ毎の利用回数（図 10）、または利用頻度（図 11B）が分析される。

5 ステップ S 502において、CPU11は、利用回数（視聴回数）が所定の閾値を超えるグループがあるか否かを判定し、利用回数が閾値を超えるグループがあると判定された場合、ステップ S 503に進み、そのグループに属する番組（利用回数が閾値を超える番組）のコンテンツ推薦情報に、この番組が定番であることを表す定番フラグを設定する。

10 また、ステップ S 502において、視聴頻度が閾値を超えるグループがあるか否かが判定され、利用頻度が閾値を超える番組があると判定された場合、ステップ S 503において、そのグループに属する番組のコンテンツ推薦情報に定番フラグが設定されるようにしてもよい。

15 ステップ S 502において、視聴回数が閾値を超えるグループがないと判定された場合、処理は終了される。

このようにして、定番フラグが設定されたコンテンツ推薦情報が、図 15 のコンテンツ推薦情報生成処理により、クライアント機器5に送信される。これにより、クライアント機器5において、例えば、定番フラグが設定されたコンテンツ推薦情報に対応する番組が自動録画するようになることができる。

20 上述した図 9 のユーザ嗜好情報生成処理においては、ユーザ嗜好情報としてグループIDが記憶されるようにしたが、番組のメタデータに含まれる複数の属性に基づいて、より詳細な嗜好情報が生成され、生成された嗜好情報に基づいて番組が推薦されるようにすることもできる。図 23 を参照して、番組のメタデータに含まれる複数の属性に基づいて、より詳細な嗜好情報を生成する第 1 の例である嗜好情報抽出処理 1について説明する。この処理は、例えば、予め決められた時期（毎週所定の時刻）に、コンテンツ推薦サーバ4において実行される。

ステップ S 521において、CPU11は、利用履歴を分析する。このとき、図 9 のステップ S 2 の場合と同様に、クライアント機器 5 から、所定の期間に利用されたコンテンツのメタデータ（グループ ID が設定されている）が取得され、グループ毎の利用回数（図 10）、または利用頻度（図 11B）が分析される。

5 ステップ S 522において、CPU11は、利用回数（利用頻度）が所定の閾値以上であるグループを検索する。なお、利用頻度が所定の閾値以上であるグループが検索されるようにしてもよい。

10 ステップ S 523において、CPU11は、グループが検索されたか否かを判定し、グループが検索されたと判定された場合、ステップ S 524に進み、検索されたグループに属する番組のメタデータを分析する。このとき、番組が複数あつた場合、複数の番組のメタデータが分析される。ステップ S 525において、CPU11は、ステップ S 524で分析された番組のメタデータに基づいて、番組ベクトルを生成する。

15 図 24 に、このとき生成される番組ベクトル PP の構成例を示す。この例では、番組ベクトル PP は、ステップ S 524 で分析された番組のメタデータの属性「タイトル（番組名）」(Tm)、「ジャンル」(Gm)、「出演者」(Pm)、「放送局」(Sm)、「時間帯」(Hm)、・・・を要素とするベクトル $PP = (T_m, G_m, P_m, S_m, H_m, \dots)$ として構成されている。そして要素 $T_m, G_m, P_m, S_m, H_m, \dots$ も、複数の要素を持つベクトルとして構成される。

20 例えば属性「放送局」に対応するベクトル Sm は、MHK総合、MHK教育、亜細亜テレビ、TAS、フシ、テレ日、東都、MHK衛星第1、MHK衛星第2、およびWOWO（いずれも仮想的な放送局の名称）など、放送局の種類が限られているので、 $S_m = \{MHK\text{総合}, MHK\text{教育}, 亜細亜テレビ, TTS, ブジ, テレ日, 東都, MHK\text{衛星第1}, MHK\text{衛星第2}, WOWO\}$ のように構成し、25 対応する放送局を値 1、その他の放送局を値 0 とすることで得られる。すなわち対応する番組の放送局がWOWOであるとき、項目「放送局」のベクトル Sm は、 $S_m = \{0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1\}$ とされる。

属性「ジャンル」に対応するベクトル G_m も、ドラマ、バラエティ、スポーツ、映画、音楽、子供向け／教育、教養／ドキュメント、ニュース／報道、およびその他など、その種類が限られているので、 $G_m = \{\text{ドラマ}, \text{バラエティ}, \text{スポーツ}, \text{映画}, \text{音楽}, \text{子供向け／教育}, \text{教養／ドキュメント}, \text{ニュース／報道}, \text{その他}\}$ のように構成し、対応するジャンルを値1、その他のジャンルを値0として得られる。すなわち対応する番組のジャンルが教養／ドキュメントであるとき、項目「ジャンル」のベクトル G_m は、 $G_m = \{0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, 0\}$ とされる。

属性「時間帯」に対応するベクトル H_m も、属性「放送局」のベクトル S_m および「ジャンル」のベクトル G_m と同様にして得ることができる。

一方、属性「タイトル」、「出演者」などのように、要素を限定することが容易でないものは、その属性を構成する単語とその頻度を表す数値の組を1つの要素とするベクトルがその属性のベクトルとなる。例えば、番組のメタデータの属性「出演者」が「personA, personB, ...」である場合、属性「出演者」に15 対応するベクトル P_m は、 $P_m = \{(personA-1), (personB-3), ...\}$ とされる。ここで、(personA-1) と (personB-3) は、メタデータの属性「出演者」を構成する単語として、personA と personB がそれぞれ1回または3回検出されたことを表す。

なお、ステップS 5 2 2において複数の番組が検索された場合、ステップS 5 2 5において、それぞれの番組毎に、番組ベクトルが生成される。

ステップS 5 2 6において、CPU 1 1は、ステップS 5 2 5において生成された番組ベクトルを統合して嗜好情報を生成する。このとき、例えば、複数の番組ベクトルのそれぞれの属性が足し合わされ、嗜好情報として生成される。

図25に、このとき生成される嗜好情報の例を示す。この例では、嗜好情報は、ベクトルとして生成されており、属性「番組名（タイトル）」(Tup)、「ジャンル」(Gup)、「出演者」(Pup)、「放送局」(Sup)、「時間帯」(Hup)、...に対応するベクトル $U_P = (T_{up}, G_{up}, P_{up}, S_{up}, H_{up})$

up, . . .) として構成されている。そして要素 T_{up}, G_{up}, P_{up}, S_{up}, H_{up}, . . . も、複数の要素を持つベクトルとして構成される。

この例では、属性「番組名（タイトル）」に対応するベクトル T_{up} は、 T_{up}

= { (title1-1 2), (title2-3), . . . } とされている。これは、

- 5 嗜好情報の属性「番組名」に要素「title1」と「title2」があり、それぞれの重要度が「1 2」と「3」に設定されていたことを表す。

重要度は、その要素に対するユーザの嗜好の度合いをあらわすもので、同一の要素が含む番組ベクトルが足し合わされるとき、重要度が 1 だけ加算される。例えれば、番組ベクトル PP1 乃至 PP20 の 20 個の番組ベクトルに基づいて、嗜

- 10 好情報が生成される場合、番組ベクトル PP5、PP10、および PP17 の 3 つの番組ベクトルにおいて、属性 T_m の中に「title2」が含まれていた場合、T_{up} の要素「title2」の重要度が「3」と設定される。

また、属性「ジャンル」に対応するベクトル G_{up} は、 G_{up} = { (ドラマ-2 5), (バラエティ-3 4), (スポーツ-4 2), (映画-3 7), (音楽-7 3), (子供向け／教育-1 2 0), (教養／ドキュメント-3), (ニュース／報道-5), (その他-2 3) } とされており、属性「ジャンル」に含まれる要素とその重要度により構成されている。

- 同様にして、嗜好情報の属性「放送局」に対応するベクトル S_{up}、属性「出演者」に対応するベクトル P_{up}、. . . が、各属性を構成する要素と重要度により構成されている。

ステップ S 523において、視聴回数が閾値以上のグループが検索されなかつたと判定された場合、ステップ S 524 乃至 S 526 の処理はスキップされ、処理は終了する。

- 25 このようにして嗜好情報が生成される。嗜好情報は、所定の回数または頻度だけ利用された番組のメタデータに基づいて、生成されるのでよりユーザの嗜好を適確に反映したものとすることができます。

なお、嗜好情報は、ステップS521で、特定のユーザの利用履歴を分析することにより、ユーザ単位に生成されるものとしてもよいし、ステップS521で複数のユーザの利用履歴を分析することにより、一般的な（複数のユーザに共通の）嗜好情報が生成されるものとしてもよい。

5 ところで、図23を参照して上述した嗜好情報抽出処理1によれば、同一の要素が含む番組ベクトルが足し合わされる都度、重要度が加算されるので、ユーザが頻繁に視聴する番組のメタデータに含まれる要素の重要度が極端に高くなり、偏った嗜好情報となってしまう場合もある。たとえば、毎日（月曜日から金曜日まで）放送される番組をユーザが欠かさず視聴している場合、その番組のメタデータに含まれる要素（例えば、タレントA）の重要度が、他の要素と比較して極端に高くなってしまう。このような、頻繁に視聴される番組（いわゆる定番の番組）のメタデータを嗜好情報に反映させないようにすることも可能である。図26を参照して、番組のメタデータに含まれる複数の属性に基づいて、嗜好情報を生成する第2の例である嗜好情報抽出処理2について説明する。

10 15 ステップS541乃至S543の処理は、図23のステップS521乃至S523の処理と同様の処理なので、その説明は省略する。ステップS544において、CPU11は、ステップS542で検索されたグループに属する番組が定番番組か否かを判定する。ここで、定番番組か否かの判定は、図22を参照して上述した定番番組設定処理により設定された定番フラグに基づいて判定される。

20 20 ステップS544において、検索された番組が定番番組ではないと判定された場合、ステップS545に進む。そして、図23のステップS524乃至S525の処理と同様にして、ステップS545において、番組のメタデータが分析され、ステップS546において番組ベクトルが生成され、ステップS547において嗜好情報が生成される。

25 一方、ステップS544において、検索された番組が定番番組であると判定された場合、ステップS545乃至S547の処理はスキップされる。

このようにすることで、定番番組に基づいて、嗜好情報が生成されることがなくなり、偏った嗜好情報が生成されることを防止することができる。

また、図23を参照して上述した処理によれば、所定の回数（または頻度）以上に視聴されているグループに属する番組について、すべて同様に番組ベクトルが生成され、嗜好情報が生成されるようにしている。この例では、シリーズで放送される番組A1, A2, A3, ... (以下、個々に区別する必要がない場合、これらをまとめたシリーズ番組Aと称する。他の場合も同様である) と番組B1, B2, B3, ... (それぞれ1つのグループに属する番組) があり、例えば各グループの閾値が3回の場合、3回視聴した番組A (正確には、シリーズ化された3個の番組が視聴されたシリーズ) についても、10回視聴した番組B (シリーズ化された10個の番組が視聴されたシリーズ) についても同様に番組ベクトルが生成される。

しかし、シリーズ番組Aとシリーズ番組Bでは、ユーザの、その番組に対する知識が異なる場合がある。例えば、ユーザは、10回視聴したシリーズ番組Bについては、番組の中にどのようなコーナーがあり、どのようなタレントが出演するかを熟知している可能性が高いが、3回しか視聴していないシリーズ番組Aについては、番組のコーナー、タレントなどについて熟知していない可能性があり、場合によっては、シリーズ番組Aを視聴したくないと感じる可能性もある。そこで、その番組に対する熟知度を反映して嗜好情報を生成する必要がある。図26を参照して、番組のメタデータに含まれる複数の属性に基づいて、嗜好情報を生成する第3の例である嗜好情報抽出処理3について説明する。

ステップS561乃至S565の処理は、図23のS521乃至S525の処理と同様の処理なので、その説明は省略する。ステップS566においてCPU1は、番組の熟知度を特定する。熟知度は、ステップS561において分析された、シリーズ番組（すなわちグループ）の利用頻度に基づいて特定される。このとき、そのシリーズ番組の利用頻度に対応して3段階の熟知度が設定される。例えば、利用頻度が「0.1」以上のものは熟知度が「高」と設定され、利用頻度

が「0.05」以上「0.1」未満のものは熟知度が「中」と設定され、利用頻度が「0.05」未満のものは熟知度が「低」と設定される。

なお、熟知度の分類は、3段階に限られるものではない。また、熟知度が段階別に分類されずに、数値として設定されるようにしてもよい。あるいはまた、利
5 用頻度ではなく、利用回数に基づいて、熟知度が設定されるようにしてもよい。

ステップS567において、CPU11は、ステップS565で生成された番組ベクトルに対して、熟知度に基づいて、重み付けを行う。このとき、例えば、熟知度が「高」の番組ベクトルに含まれる要素に基づいて生成される、嗜好情報の重要度は3倍に設定され、熟知度が「中」の番組ベクトルに含まれる要素に基づいて生成される、嗜好情報の重要度は2倍に設定され、熟知度が「低」の番組ベクトルに含まれる要素に基づいて生成される、嗜好情報の重要度は1倍に設定さ
10 れる。

ステップS568において、CPU11は、ステップS567において重み付けされた番組ベクトルに基づいて、嗜好情報を生成する。このとき、例えば、熟知
15 度が「高」である番組ベクトルPP1を構成するベクトルPm1が、Pm1 = (personA) であり、熟知度が「中」である番組ベクトルPP2を構成するベクトルPm2が、Pm2 = (personB) であり、熟知度が「低」である番組ベクトルPP3を構成するベクトルPm3が、Pm3 = (personC) である場合、嗜好情報の属性「出演者」に対応するベクトルPupは、Pup = { (personA-3),
20 (personB-2), (personC-1) }とされる。

このようにして、熟知度を反映した嗜好情報が生成される。なお、嗜好情報は、ステップS561で、特定のユーザの利用履歴を分析することにより、ユーザ単位に生成されるものとしてもよいし、ステップS561で複数のユーザの利用履歴を分析することにより、一般的な（複数のユーザに共通の）嗜好情報が生成さ
25 れるものとしてもよい。例えば、まだ視聴履歴が蓄積されていないユーザに対しては、一般的な嗜好情報に基づいて番組（コンテンツ）を推薦することができる。嗜好情報は、番組の熟知度を反映して生成されているので、例えば、単に視聴率

の高い番組を推薦するより、信頼性の高い番組を、ユーザに推薦することができる。

以上においては、嗜好情報の重要度は、番組が視聴される毎に加算されるよう 5 しているが、場合によっては重要度を減算する必要もある。例えば、ユーザは クライアント機器 5において、自動録画が予約された定番番組について録画予約 を解除することができる。ここで、録画予約が解除された番組は、それ以前は、 頻繁に視聴されていたにもかかわらず、その回だけ録画予約をあえて解除したもの 10 であり、録画予約が解除された回は、ユーザの嗜好に合わない内容であったことが想定される。そこで、本発明においては、この録画予約が解除された番組の メタデータに基づいて、ユーザの嗜好情報の変更が行われる。

図 28 を参照して、嗜好情報変更処理について説明する。この処理は、クライアント機器 5 の CPU 5 1 により、自動録画の予約の解除が検知されたとき、コンテンツ推薦サーバ 4 に対して、自動録画予約が解除された番組の情報がネットワーク 6 を介して通知されたとき、コンテンツ推薦サーバ 4 により実行される。

15 ステップ S 5 8 1において、CPU 1 1 は、自動録画予約が解除された回の番組 (例えば、10 回放送されるシリーズ番組のうち、第 3 回目の番組) のメタデータを取得し、ステップ S 5 8 2において、取得したメタデータの属性を分析する。ステップ S 5 8 3において、CPU 1 1 は、自動録画予約が設定された番組の嗜好情報の属性と、自動録画予約が解除された回の番組のメタデータの属性を比較し、 20 ステップ S 5 8 4においてネガティブな要素を検出する。

例えば、番組 X の自動録画予約が設定され、ユーザによりその録画予約が解除された場合を考える。自動録画予約が設定された回の番組 X のメタデータに基づいて、生成された番組ベクトル P P 1 において、属性「出演者」に対応するベクトル Pm 1 が、 $Pm1 = (\text{personA}, \text{personB})$ であり、自動録画予約が解除された 25 回の番組 X のメタデータに基づいて、生成された番組ベクトル P P 2 において、属性「出演者」に対応するベクトル Pm 2 が、 $Pm2 = (\text{personA}, \text{personB}, \text{personC})$ であった場合、自動録画予約が解除された回の番組 X には

「personC」が出演していたため、録画予約が解除されたと考えられ、ステップ S 584において、「personC」がネガティブな要素として検出される。

ステップ S 585において、CPU11は、ステップ S 584で検出されたネガティブな要素に基づいて、ユーザの嗜好情報を変更する。このとき、ネガティブな要素の重要度が減算される。いまの場合、例えば、嗜好情報の属性「出演者」に対応するベクトル Pup が、 $Pup = \{ (personA - 5), (personB - 2), (personC - 3) \}$ であった場合、ステップ S 585において、 $Pup = \{ (personA - 5), (personB - 2), (personC - 2) \}$ と変更され、「personC」の重要度が 1だけ減算される。

10 このようにして、嗜好情報の変更が行われる。このようにすることで、ユーザが好みない属性の重要度は低く変更されるので、ユーザに番組（コンテンツ）の推薦を行うとき、よりユーザの嗜好に合った番組（コンテンツ）を推薦することができる。

また、以上においては、視聴回数が所定の回数以上のシリーズ番組のメタデータに基づいて嗜好情報が生成される例について説明したが、このようにして生成された嗜好情報に基づいた番組の推薦が続けて行われると、ユーザが飽きてしまう恐れがある。そこで、本発明においては、ユーザが初めて視聴した（過去に視聴していない）番組に注目する。初めて視聴した番組に対して、ユーザは特別な興味をもっていることが考えられるので、この番組のメタデータに基づいて、特20殊嗜好情報を生成する。

図29を参照して、コンテンツ推薦サーバ4による特殊嗜好情報生成処理について説明する。この処理は、例えば、ユーザにより、所定のコマンドを投入したとき実行されるようにしてもよいし、所定の周期（例えば、1週間）毎に自動的に実行されるようにしてもよい。

25 ステップ S 601において、CPU11は利用履歴を検索する。このとき、クライアント機器5から、所定の期間（例えば、直近の6ヶ月間）に利用されたコン

テソツのメタデータ（グループIDが設定されている）が取得され、グループ毎の利用回数（図10）が分析される。

ステップS602において、CPU11は、視聴回数が1回のシリーズ番組（そのグループに属する番組の中の1番組だけが視聴されているグループ）を検出する。ステップS603において、CPU11は、視聴回数が1回のシリーズ番組が検出されたか否かを判定し、シリーズ番組が検出されたと判定された場合、ステップS604に進み、検出されたシリーズ番組に属する番組のメタデータに基づいて、特殊嗜好情報を生成する。このとき、図23のステップS524乃至S526と同様に、番組のメタデータに基づいて番組ベクトルが生成され、番組ベクトルに基づいて特殊嗜好情報が生成される。ステップS603において、視聴回数が1回の番組が検出されなかつたと判定された場合、ステップS604の処理はスキップされる。

このようにして、ユーザが初めて視聴した番組のメタデータに基づいて特殊嗜好情報が生成される。

次に、図23、図26、および図27を参照して上述した処理により生成した嗜好情報に基づいて、コンテンツが推薦される処理について説明する。

図30は、図23、図26、および図27を参照して上述した処理により生成した嗜好情報に基づいて、コンテンツを推薦する場合の、コンテンツ推薦サーバ4のCPU11の機能的構成例を示すブロック図である。この例では、番組のメタデータを取得するメタデータ取得部111、特定のユーザの嗜好情報を取得する嗜好情報取得部112が設けられている。

メタデータ取得部111により取得された番組のメタデータは、番組ベクトル抽出部113に出力され、番組ベクトル抽出部113において、番組ベクトルが抽出される。また、嗜好情報取得部112により取得された嗜好情報は、嗜好ベクトル抽出部114に出力され、嗜好情報に基づく嗜好ベクトルが抽出される。番組ベクトル抽出部113により抽出された番組ベクトルと、嗜好ベクトル抽出

部 114 により抽出された嗜好ベクトルは、マッチング処理部 115 に出力され、マッチング処理部 115 は、番組ベクトルと嗜好ベクトルの類似度を算出する。

1 つの嗜好ベクトルに対して複数の番組ベクトルとの類似度が算出され、マッチング処理部 115 は、類似度が高い順に所定の数の番組ベクトルを選択し、選 5 択された番組ベクトルに対応する番組のメタデータを情報出力部 116 に出力す る。

情報出力部 116 は、マッチング処理部 115 により選択された番組のメタデータを、例えば、記憶部 18 に記憶させる。

次に、図 31 のフローチャートを参照して、推薦情報検索処理について説明す 10 る。ステップ S621において、メタデータ取得部 111 は、コンテンツ（番組）のメタデータを取得する。このとき、所定の基準に基づいて、複数の番組（例えば、今後 1 週間に放送される番組）のメタデータが取得される。ステップ S622 において、番組ベクトル抽出部 113 は、ステップ S621 で取得された番組のメタデータに基づいて、番組ベクトルを抽出する。このとき、図 24 を 15 参照して上述した番組ベクトルと同様に、複数の番組の番組ベクトルが抽出され る。

ステップ S623 において、嗜好ベクトル抽出部 114 は、嗜好情報を取得す 20 る。このとき、特定のユーザの嗜好情報が取得される。ステップ S624 において、嗜好ベクトル抽出部 114 は、嗜好ベクトルを生成する。嗜好ベクトルは、 図 25 に示されるような嗜好情報が、そのまま嗜好ベクトルとして生成されるよ うにしてもよいし、嗜好情報を構成する特定の属性が抽出されて嗜好ベクトルと して生成されるようにしてもよい。

ステップ S625 において、マッチング処理部 115 は、ステップ S622 において生成された番組ベクトル PP と、ステップ S624 において生成された嗜 25 好ベクトル UP のコサイン距離を算出する。いま、ベクトル PP とベクトル UP のなす角を θ とすると、 $\cos \theta = PP \cdot UP / |PP| |UP|$ となる。

例えば、嗜好ベクトルUP (= (T_{up}, G_{up}, P_{up}, S_{up}, H_{up}, . . .)) におけるベクトルP_{up}が、P_{up} = { (personA-1), (personB-1), (personC-1) } であり、番組ベクトルPP = (T_m, G_m, P_m, S_m, H_m, . . .) におけるベクトルP_mが、P_m = { (personA-1), (personD-1), (personE-1) } である場合、コサイン距離cosθ_pは、式(1)に従って算出される。

$$\cos \theta_p = (1 \cdot 1) / (\sqrt{3} \times \sqrt{3}) = 1 / 3 \quad \dots (1)$$

なお、式中“・”は、内積を表し、“×”はスカラ演算を表す。

cosθ_pと同様にして、ベクトルT_{up}, G_{up}, S_{up}, H_{up}, . . . と、ベクトルT_m, G_m, S_m, H_m, . . .とのコサイン距離cosθ_t, cosθ_g, cosθ_s, cosθ_h, . . .が算出される。

そして、算出されたコサイン距離を式(2)に従って合計し、類似度Simを計算する。

$$Sim = \cos \theta_t + \cos \theta_g + \cos \theta_p + \cos \theta_s + \cos \theta_h \quad \dots (2)$$

このようにして、嗜好ベクトルUPと番組ベクトルPPの類似度が算出される。なお、1つの嗜好ベクトルUPに対して複数の番組ベクトルPPとの類似度が算出される。これにより、それぞれの番組のメタデータについて、ユーザの嗜好情報との類似度が算出される。

ステップS626において、マッチング処理部115は、類似度の高い番組のメタデータを選択し、情報出力部116に出力する。このとき、ステップS625で算出された類似度に基づいて、類似度の高い順、すなわちSimの値が大きい順に所定の数(例えば、10)だけ番組ベクトルPPが選択され、選択された番組ベクトルPPに対応する番組のメタデータが出力される。なお、類似度が所定の値より大きい番組ベクトルPPが全て選択され、選択された番組ベクトルPPに対応する番組のメタデータが出力されるようにしてもよい。

ステップS627において、情報出力部116は、ステップS626で抽出された番組のコンテンツ推薦情報をクライアント機器5に送信する。

このようにして、嗜好情報に基づく番組の推薦が行われる。

ところで、番組の推薦は、図29を参照して説明した処理で生成された特殊嗜好情報に基づいて行うこともできる。図32を参照して、コンテンツ推薦サーバ4による特殊推薦情報検索処理について説明する。この処理は、例えば、ユーザ5により、所定のコマンドを投入したとき実行されるようにしてよいし、所定の周期（例えば、1週間）毎に自動的に実行されるようにしてよい。

ステップS641とS642の処理は、図31のステップS621とS622の処理と同様の処理であるので、その説明は省略する。

ステップS643において、嗜好ベクトル抽出部114は、特殊嗜好情報を取得する。このとき、図29を参照して上述した特殊嗜好情報生成処理により生成された特殊嗜好情報が取得される。そして、ステップS644において、嗜好ベクトル抽出部114は、ステップS643で取得された特殊嗜好情報に基づいて、嗜好ベクトルを生成する。

ステップS645とS646の処理は、図23のステップS625とS626の処理と同様の処理であるので、その説明は省略する。

ステップS627において、情報出力部116は、ステップS646において抽出された番組のコンテンツ推薦情報をクライアント機器5に送信する。

このようにして、特殊嗜好情報に基づいて、コンテンツの推薦が行われる。上述したように、特殊嗜好情報は、ユーザが初めて視聴した番組のメタデータに基づいて生成されたものであり、特殊嗜好情報に基づいて、ユーザにコンテンツを推薦することにより、より新鮮な印象を与えることができる。

上述した一連の処理は、ソフトウェアにより実行することもできる。そのソフトウェアは、そのソフトウェアを構成するプログラムが、専用のハードウェアに組み込まれているコンピュータ、または、各種のプログラムをインストールすることで、各種の機能を実行することが可能な、例えば汎用のパーソナルコンピュータなどに、記録媒体からインストールされる。

この記録媒体は、図7、8に示すように、ユーザにプログラムを提供するため
に配布される、プログラムが記録されている磁気ディスク31または71（フレ
キシブルディスクを含む）、光ディスク32または72（CD-ROM（Compact
Disk-Read Only Memory）、DVD（Digital Versatile Disk）を含む）、光
5 磁気ディスク33または73（MD（Mini-Disk）（商標）を含む）、もしくは
半導体メモリ34または74などよりなるパッケージメディアなどにより構成さ
れる。

また、本明細書において、記録媒体に記録されるプログラムを記述するステッ
プは、記載された順序に沿って時系列的に行われる処理はもちろん、必ずしも時
10 系列的に処理されなくとも、並列的あるいは個別に実行される処理をも含むもの
である。

なお、本明細書において、システムとは、複数の装置により構成される装置全
体を表すものである。

15 産業上の利用可能性

本発明によれば、コンテンツの属性を表す項目から生成されたグループ化項目
におけるグループ毎の利用頻度から、コンテンツ推薦を行うことができる。

請求の範囲

1. 配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の 1 個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループ ID を付与し、コンテンツのグループ化を行うグループ化手段と、
5 前記グループ ID 毎にコンテンツの利用頻度を算出する算出手段と、
前記算出手段により算出された前記利用頻度に基づいて、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報を生成する生成手段と、
前記生成手段により生成された前記ユーザ嗜好情報に基づいて、コンテンツを推薦する推薦手段と
10 を備えることを特徴とする情報処理装置。
2. 放送時間帯を表す属性項目と、少なくとも 1 つ以上の他の属性項目からなるグループ化項目が設定されており、
前記グループ化手段は、そのグループ化項目に基づいてコンテンツのグループ化を行う
15 ことを特徴とする請求の範囲第 1 項に記載の情報処理装置。
3. 少なくとも放送時間帯を表す属性項目からなる前記グループ化項目と、他の属性項目からなる前記グループ化項目が設定されており、
前記グループ化手段は、それらのグループ化項目に基づいてコンテンツのグループ化を行う
20 ことを特徴とする請求の範囲第 1 項に記載の情報処理装置。
4. 前記グループ化手段は、コンテンツの前記属性項目の内容を形態素解析し、その結果に基づいて、前記グループ化項目の内容の類似度を決定する
ことを特徴とする請求の範囲第 1 項に記載の情報処理装置。
5. 前記生成手段は、グループに属するコンテンツの利用状態が所定の条件を
25 満たしていないグループの利用頻度を、前記ユーザ嗜好情報の生成に利用しない
ことを特徴とする請求の範囲第 1 項に記載の情報処理装置。
6. 前記推薦手段は、

前記算出手段により算出された前記利用頻度が、予め設定された値より高いか否かを判定する判定手段と、

前記判定手段により、前記利用頻度が、予め設定された値より高いと判定された場合、前記コンテンツの推薦情報に、頻繁に視聴されるコンテンツであること

5 を表す定番フラグを設定する設定手段と

を備えることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の情報処理装置。

7. 前記生成手段は、

前記算出手段により算出された前記利用頻度が予め設定された値より高いグループのコンテンツのメタデータを取得し、前記メタデータの特徴量を表すベクトル

10 ルを抽出する抽出手段を備え、

前記抽出手段により抽出されたベクトルに基づいて、前記嗜好情報を生成することを特徴とする請求の範囲第1項に記載の情報処理装置。

8. 前記生成手段は、

前記算出手段により算出された前記利用頻度が予め設定された値より高いグループのコンテンツが、前記定番フラグが設定されたコンテンツ推薦情報に対応するコンテンツか否かを判定する定番判定手段を備え、

前記定番判定手段により、前記コンテンツが、前記定番フラグが設定されたコンテンツ推薦情報に対応するコンテンツではないと判定された場合、前記抽出手段は、コンテンツのメタデータを取得し、前記メタデータの特徴量を表すベクトルを抽出する

ことを特徴とする請求の範囲第7項に記載の情報処理装置。

9. 前記嗜好情報は、複数の属性とその属性の重要度を表す値により構成される

ことを特徴とする請求の範囲第7項に記載の情報処理装置。

25 10. 前記生成手段は、

前記算出手段により算出された前記利用頻度に基づいて、前記コンテンツの熟知度を設定する熟知度設定手段を備え、

前記熟知度に基づいて、前記嗜好情報の重要度を表す値に重み付けを行うことを特徴とする請求の範囲第7項に記載の情報処理装置。

1 1. 前記生成手段は、

前記コンテンツの利用履歴に基づいて、利用回数が所定の値以下だけ利用され

5 たコンテンツを検索する検索手段と、

前記検索手段により検索されたコンテンツのメタデータに基づいて、特殊嗜好情報を生成する特殊嗜好情報生成手段とをさらに備える

ことを特徴とする請求の範囲第7項に記載の情報処理装置。

1 2. 前記嗜好情報または前記特殊嗜好情報の特徴量を表すベクトルを抽出す
10 る第1の抽出手段と、

予め設定された期間に放送されるコンテンツのメタデータを取得し、前記メタデータの特徴量を表すベクトルを抽出する第2の抽出手段と、

前記第1の抽出手段により抽出されたベクトルと第2の抽出手段により抽出されたベクトルの類似度を演算する演算手段とを備え、

15 前記推薦手段は、前記類似度が高い順に、予め設定された数だけ前記第2の抽出手段により抽出されたベクトルを選択し、選択されたベクトルのメタデータに基づいて、コンテンツを推薦する

ことを特徴とする請求の範囲第11項に記載の情報処理装置。

1 3. 配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与し、コンテンツのグループ化を行うグループ化ステップと、

前記グループID毎にコンテンツの利用頻度を算出する算出ステップと、

前記算出ステップの処理で算出された前記利用頻度に基づいて、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報を生成する生成ステップと、

前記生成ステップの処理で生成された前記ユーザ嗜好情報に基づいて、コンテンツを推薦する推薦ステップと

を含むことを特徴とする情報処理方法。

- 1 4. 配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与することによっての、コンテンツのグループ化を制御する5 グループ化制御ステップと、

前記グループID毎のコンテンツの利用頻度の算出を制御する算出制御ステップと、

前記算出制御ステップの処理で算出された前記利用頻度に基づいての、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報の生成を制御する生成制御ステップと、

- 10 前記生成制御ステップの処理で生成された前記ユーザ嗜好情報に基づいての、コンテンツの推薦を制御する推薦制御ステップと

を含むことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

- 1 5. 配信されるコンテンツの属性を表す属性項目の中の1個以上の属性項目からなるグループ化項目が一定以上の類似度をもって類似するコンテンツに、同一のグループIDを付与することによっての、コンテンツのグループ化を制御するグループ化制御ステップと、

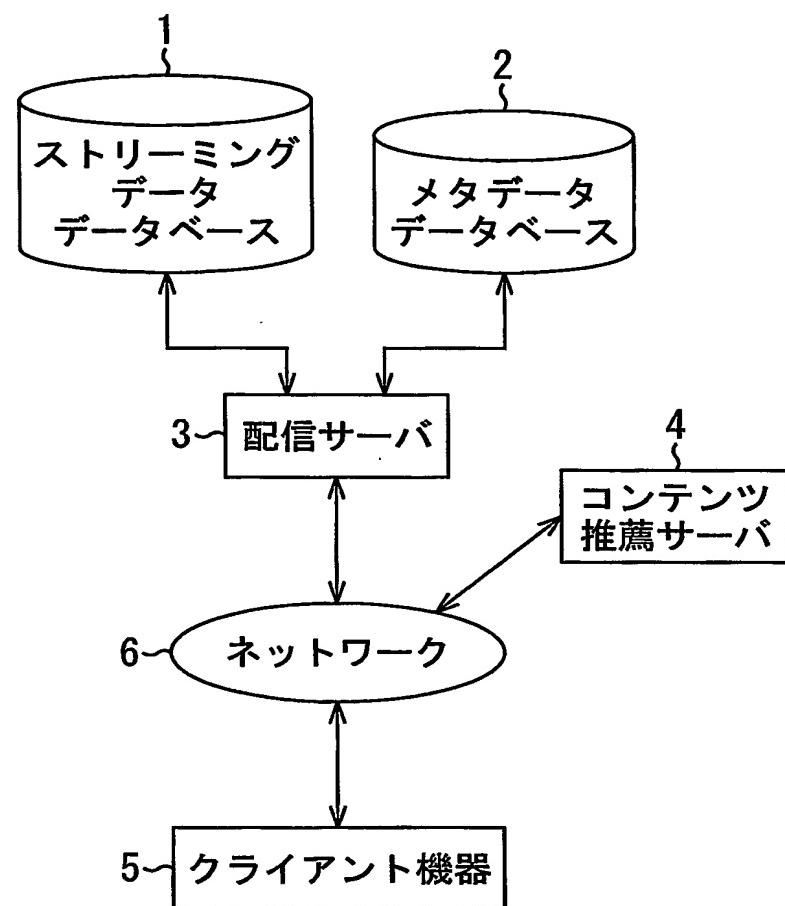
前記グループID毎のコンテンツの利用頻度の算出を制御する算出制御ステップと、

- 20 前記算出制御ステップの処理で算出された前記利用頻度に基づいての、ユーザの嗜好を表すユーザ嗜好情報の生成を制御する生成制御ステップと、

前記生成制御ステップの処理で生成された前記ユーザ嗜好情報に基づいての、コンテンツの推薦を制御する推薦制御ステップと

を含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

図 1



2/32

図 2

- ・放送開始時刻=「2002/11/10 19:00」]
- ・放送終了時刻=「2002/11/10 20:00」] 時間枠
- ・放送局=「8ch」
- ・ジャンル=「バラエティ」
- ・番組タイトル=「スーパー 笑いテレビ」
- ・出演者リスト=「タレントA」「タレントB」、……
- ・番組内容=「今夜は特別版！スペシャルゲストとして…」
- ・キーワード=「ワクワク」

3/32

図 3

「放送局」, 「開始時刻」, 「終了時刻」	グループID
8ch, 00:00～06:00	xxxx
8ch, 06:00～07:00	xxxx
8ch, 07:00～08:00	xxxx
⋮	
10ch, 00:00～06:00	xxxx
10ch, 06:00～07:00	xxxx
10ch, 07:00～08:00	xxxx
⋮	

4/32

図 4

「ジャンル」, 「出演者」	グループID
バラエティ, タレントA	xxxx
ニュース, タレントA	xxxx
映画, タレントA	xxxx
⋮	
バラエティ, タレントB	xxxx
ニュース, タレントB	xxxx
映画, タレントB	xxxx
⋮	

5/32

図 5

- ・放送開始時刻=「2002/11/10 19:00」
- ・放送終了時刻=「2002/11/10 20:00」
- ・放送局=「6ch」
- ・ジャンル=「バラエティ」
- ・番組タイトル=「スーパー 笑いテレビ」
- ・出演者リスト=「タレントA」「タレントB」、……
- ・番組内容=「今夜は特別版！スペシャルゲストとして…」
- ・キーワード=「ワクワク」
- ・グループID=xxxx, xxxx, ……

6/32

図 6

- ・放送開始時刻=「2002/10/18 7:00」
- ・放送終了時刻=「2002/10/18 8:00」
- ・放送局=「8ch」
- ・ジャンル=「ニュース」
- ・番組タイトル=「モーニングニュース」
- ・出演者リスト=「タレントC」「タレントD」、……
- ・番組内容=「ニュース」
- ・キーワード=「xxxx」

グループID=xxxx, xxxx

図7

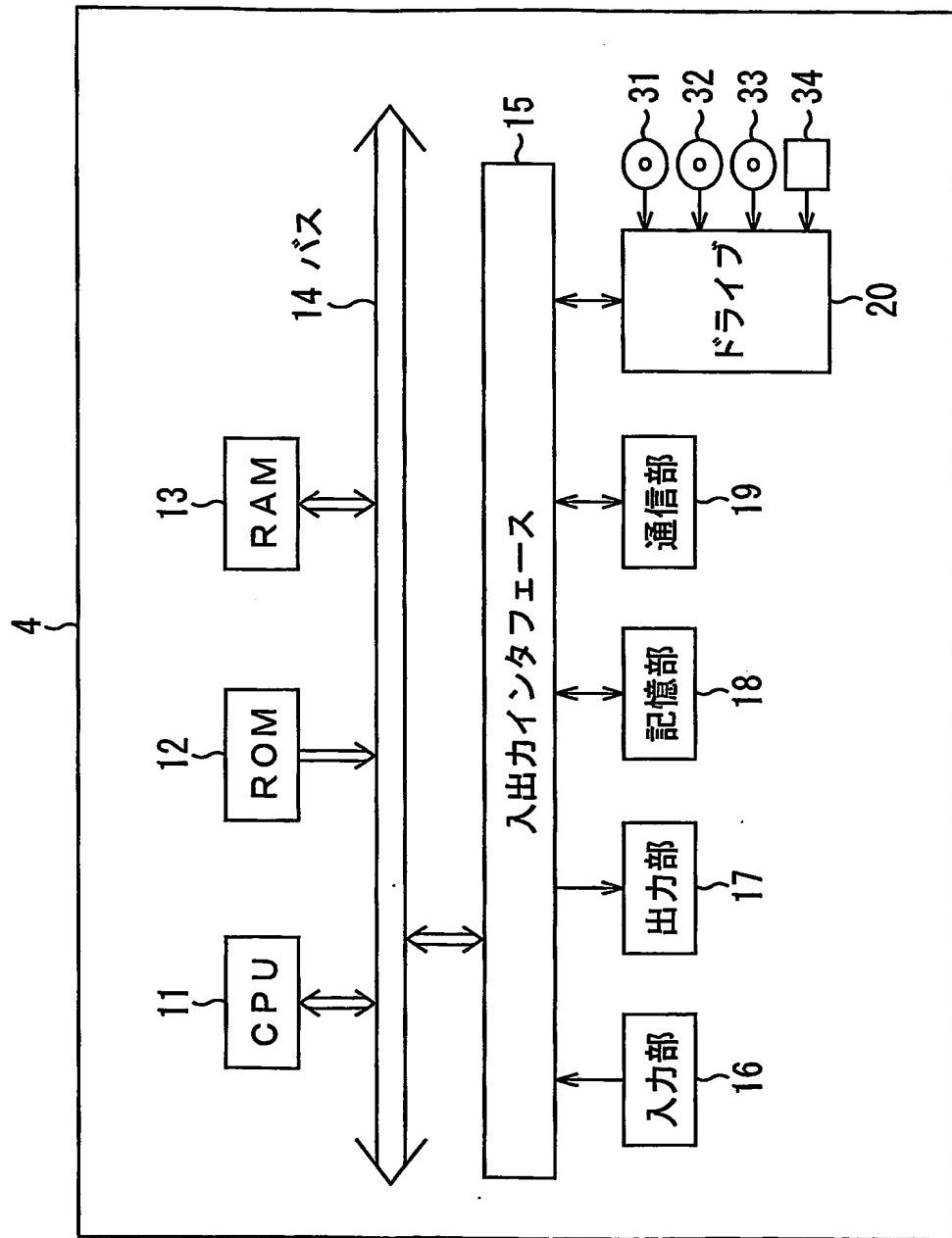
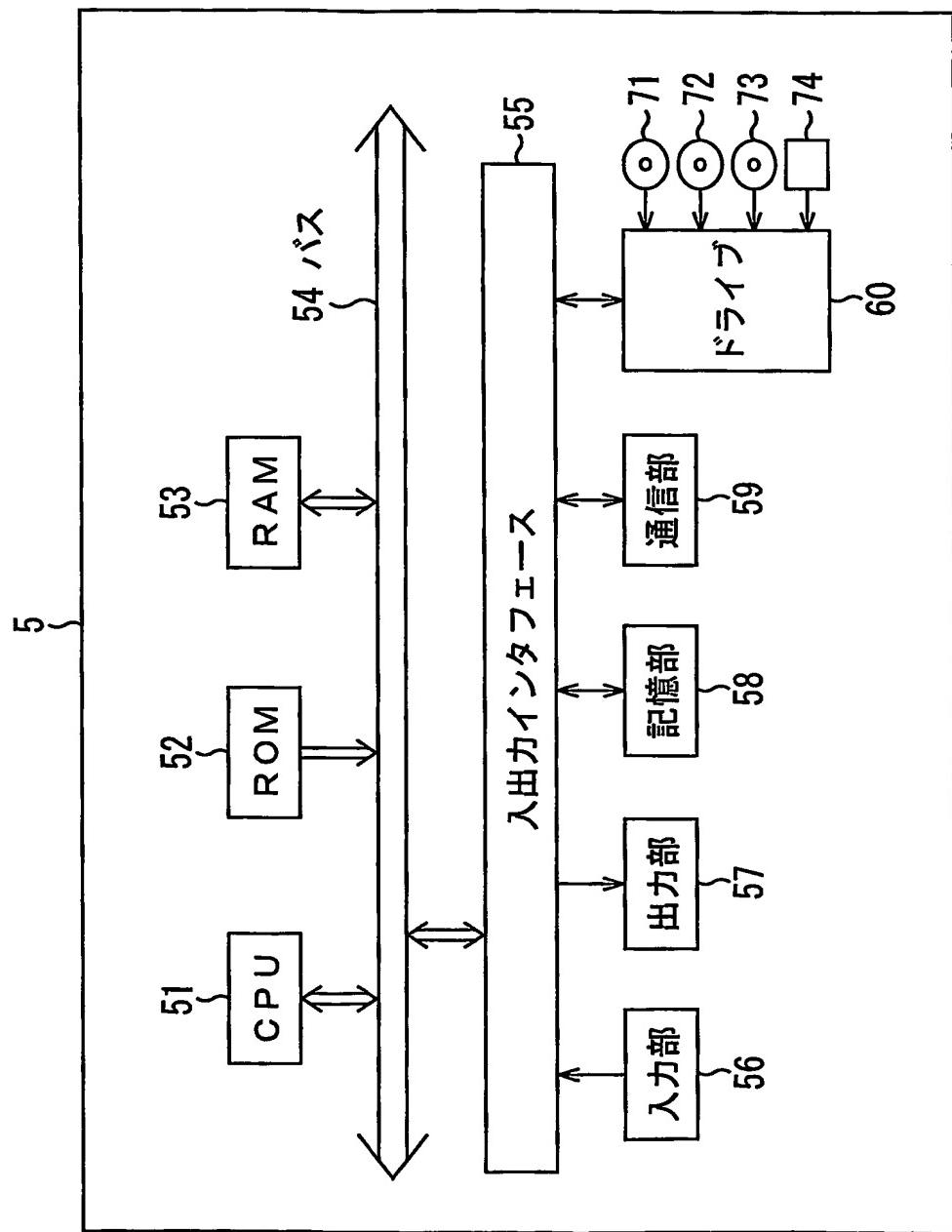
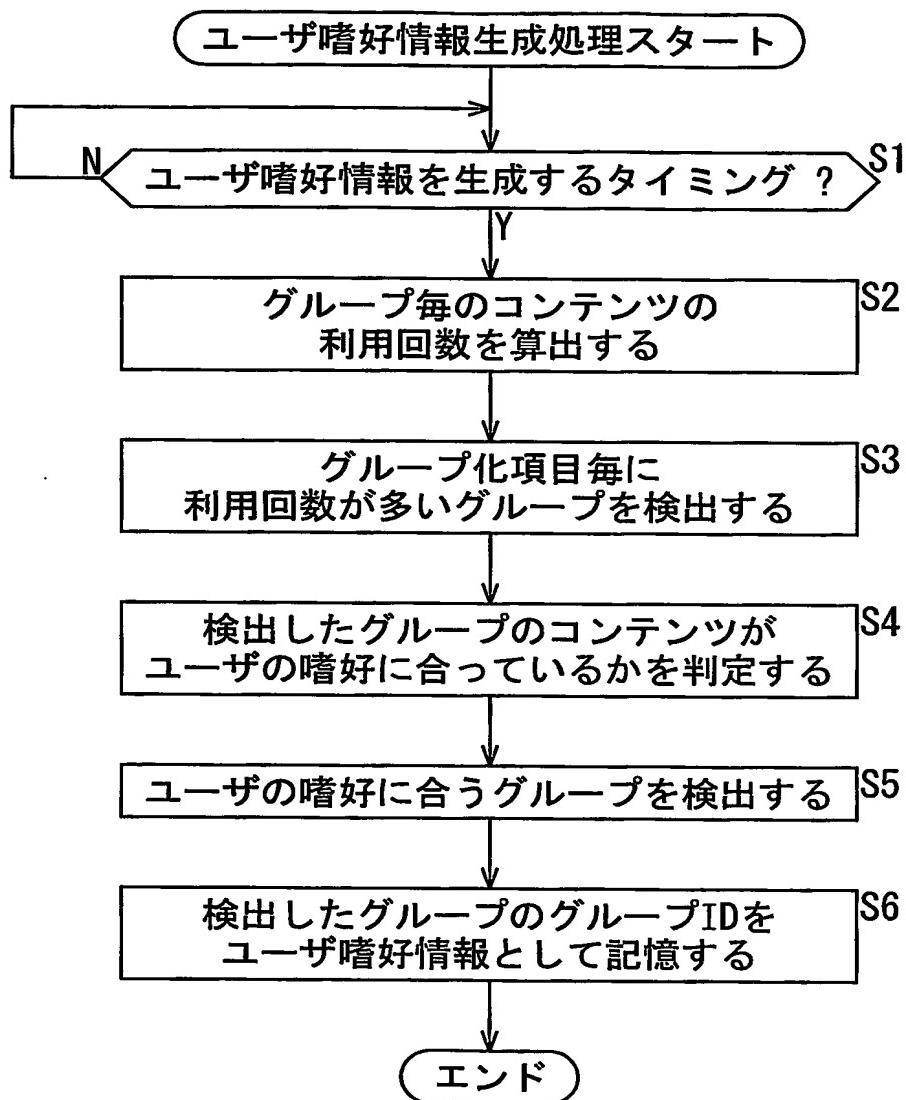


図 8



9/32

図 9



10/32

図10

「放送局」, 「開始時刻」, 「終了時刻」	回数
8ch, 20:00~21:00	7
10ch, 19:00~20:00	7
8ch, 22:00~23:00	6
	⋮

11/32

図11A

「ジャンル」, 「出演者」	回数
バラエティ, タレントD	10
ニュース, タレントD	8
バラエティ, タレントC	5
⋮	

図11B

「ジャンル」, 「出演者」	正規化回数
バラエティ, タレントD	0.25
ニュース, タレントD	0.08
バラエティ, タレントC	0.0625
⋮	

12/32

図12

配信リスト「8ch, 20:00~21:00」	利用履歴「8ch, 20:00~21:00」
10/25(土) 番組A	視聴されていない
10/24(金) 番組B	視聴された

13/32

図13

配信リスト「バラエティ、タレントD」	利用履歴「バラエティ、タレントD」
10/25(土) 番組AA 番組AB	視聴されていない 視聴されていない
10/24(金) 番組BA	視聴されていない

14/32

図14

配信リスト「8ch, 20:00~21:00」	利用履歴「8ch, 20:00~21:00」
10/25(土) 番組A	視聴されていない
10/24(金) 番組B	視聴された
番組C	視聴された
10/23(木) 番組D	視聴された

図15

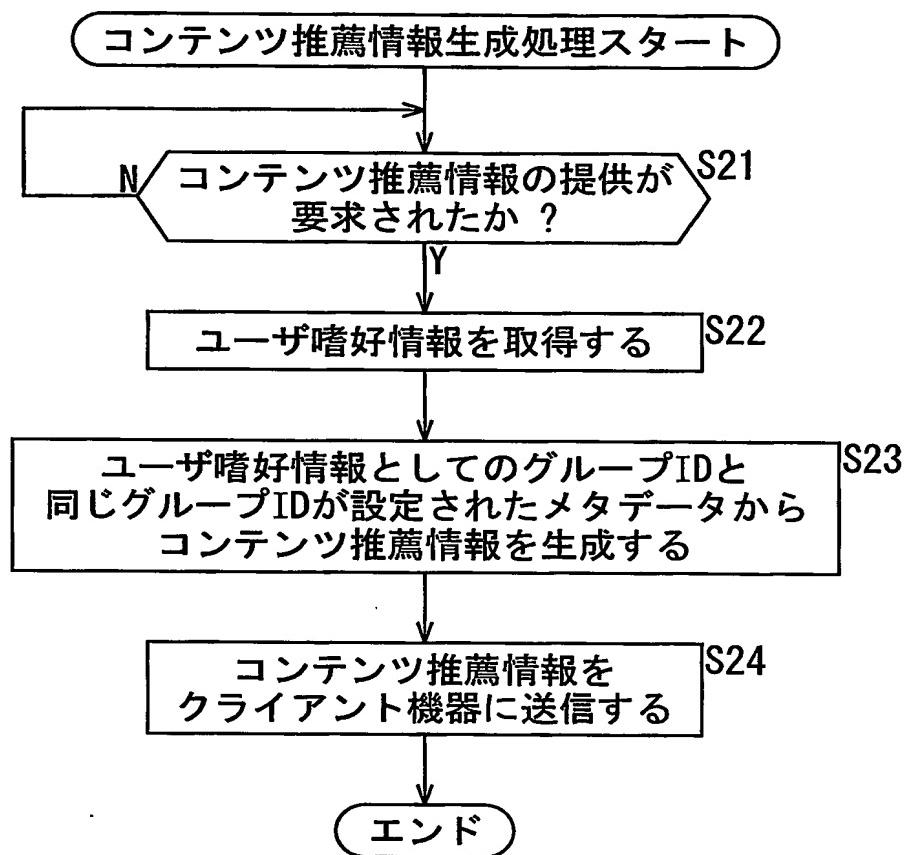


図16

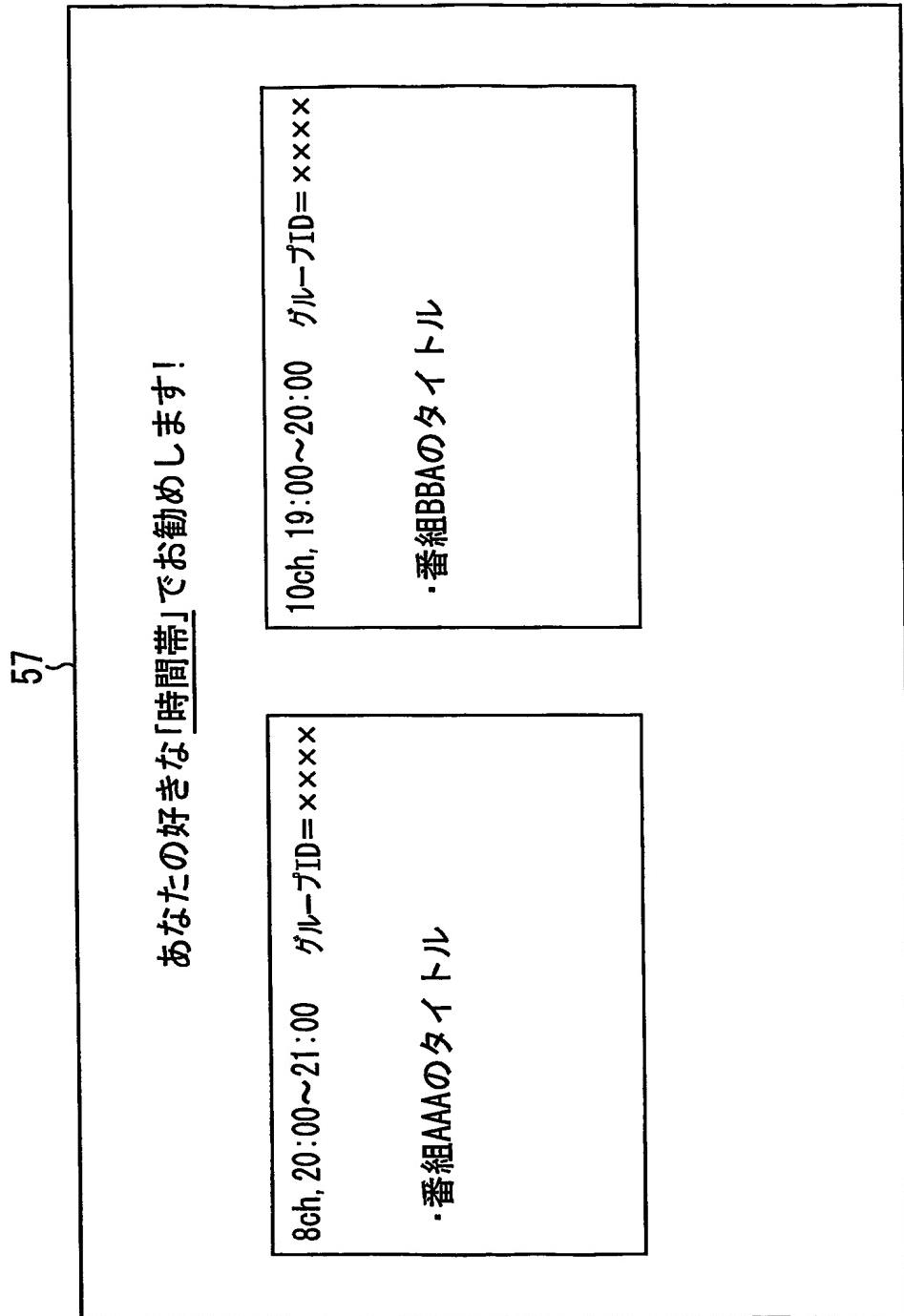


図17

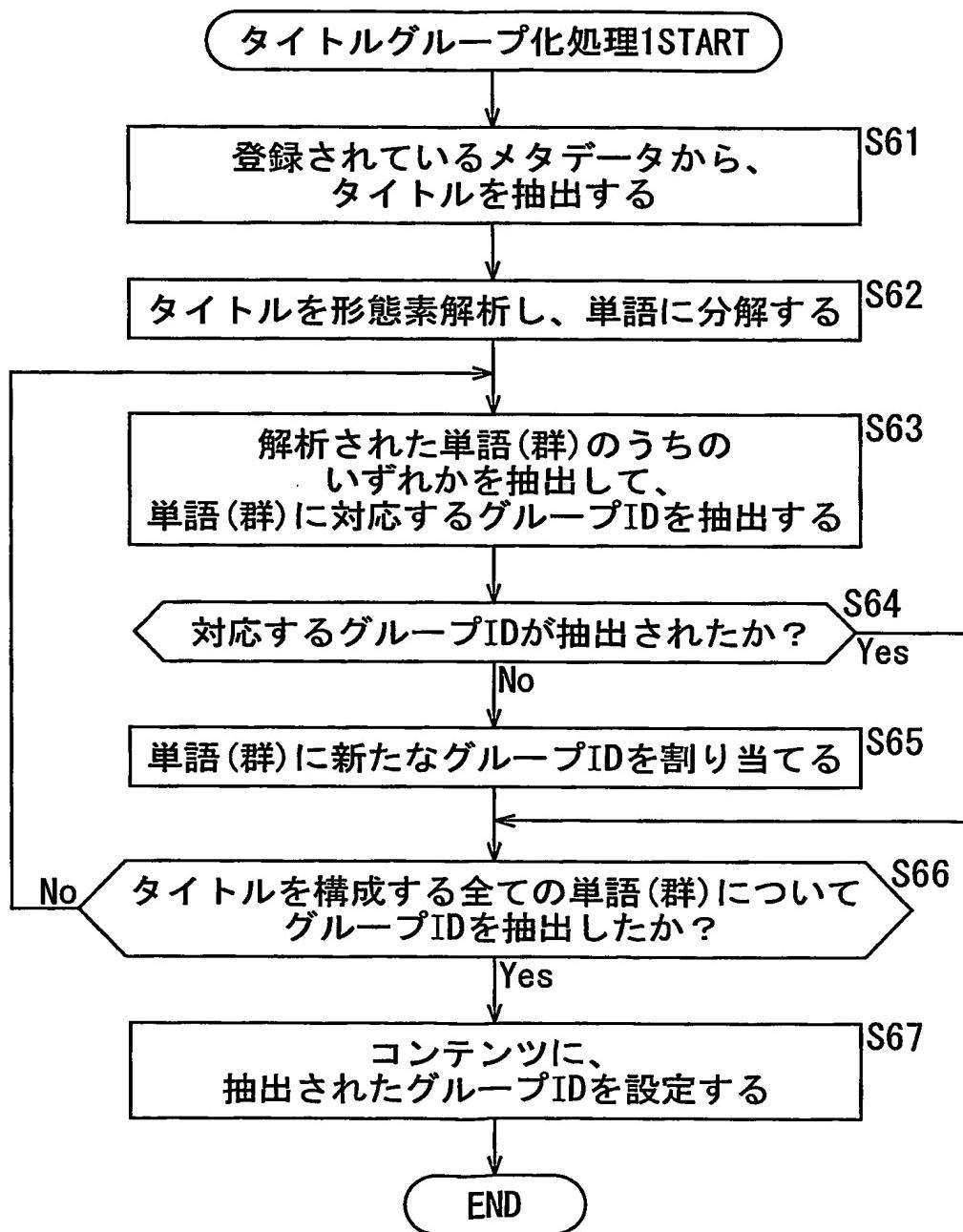
57

あなたのお好きな「ジャンル」、「出演者」でお勧めします

バラエティ、タレントC グループID=xxxx
ニュース、タレントD グループID=xxxx

- ・番組CCAのタイトル
- ・番組CCBのタイトル
- ⋮

図18



19/32

図19

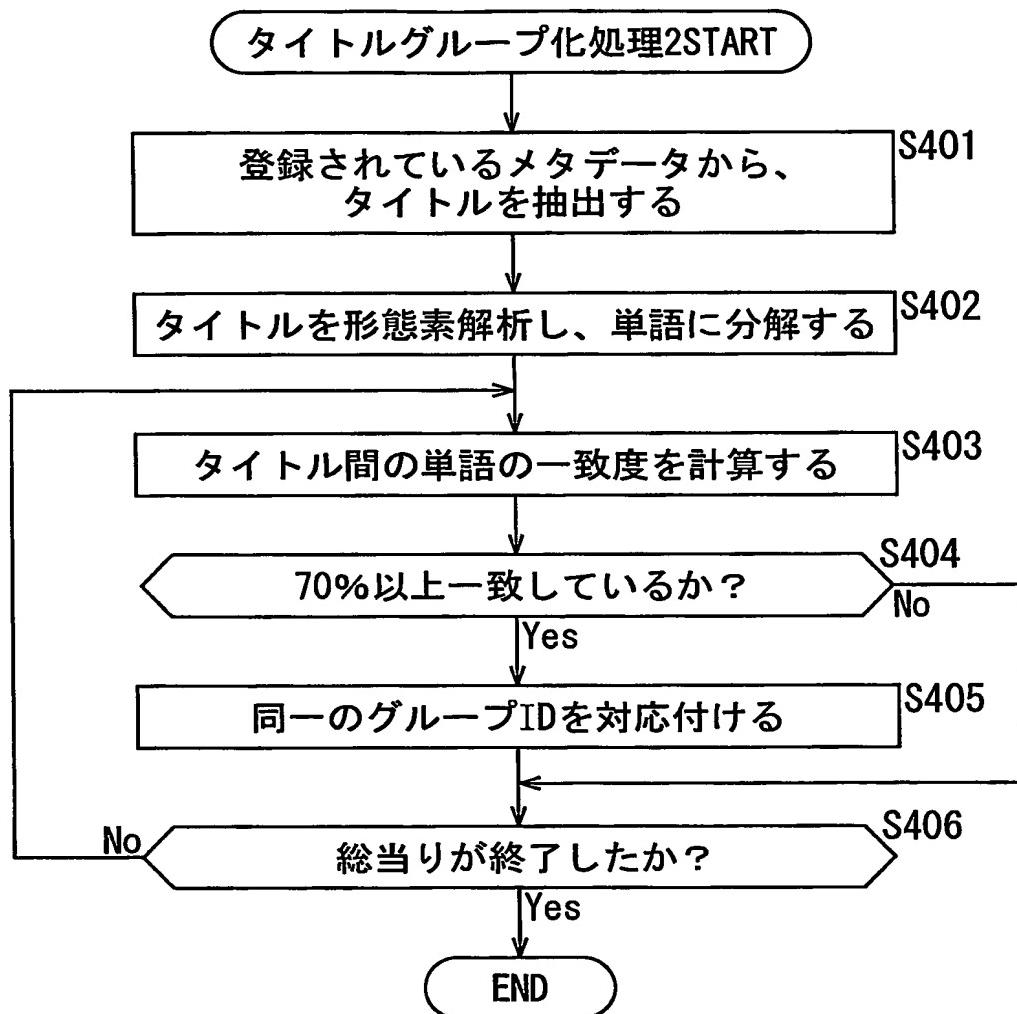


図20

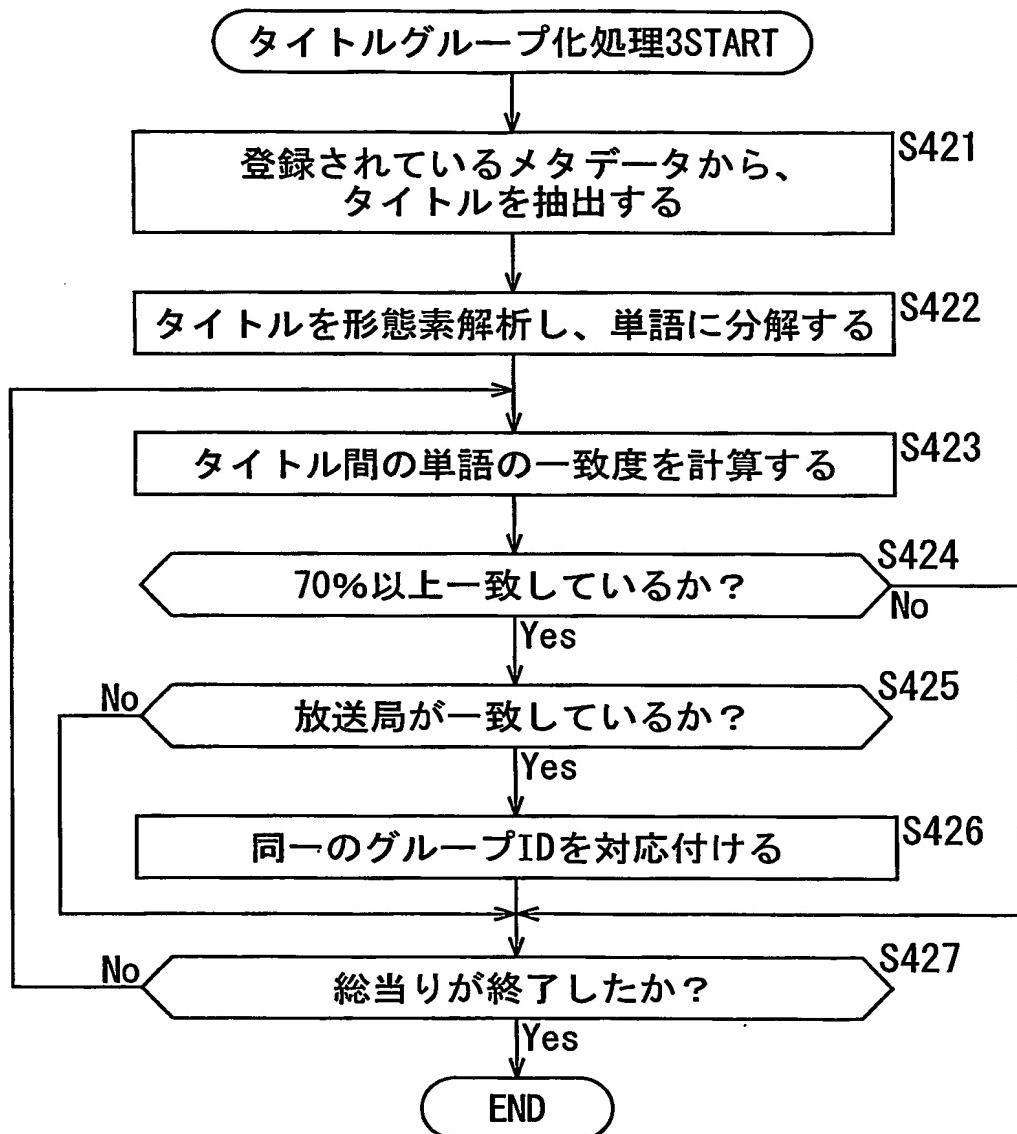
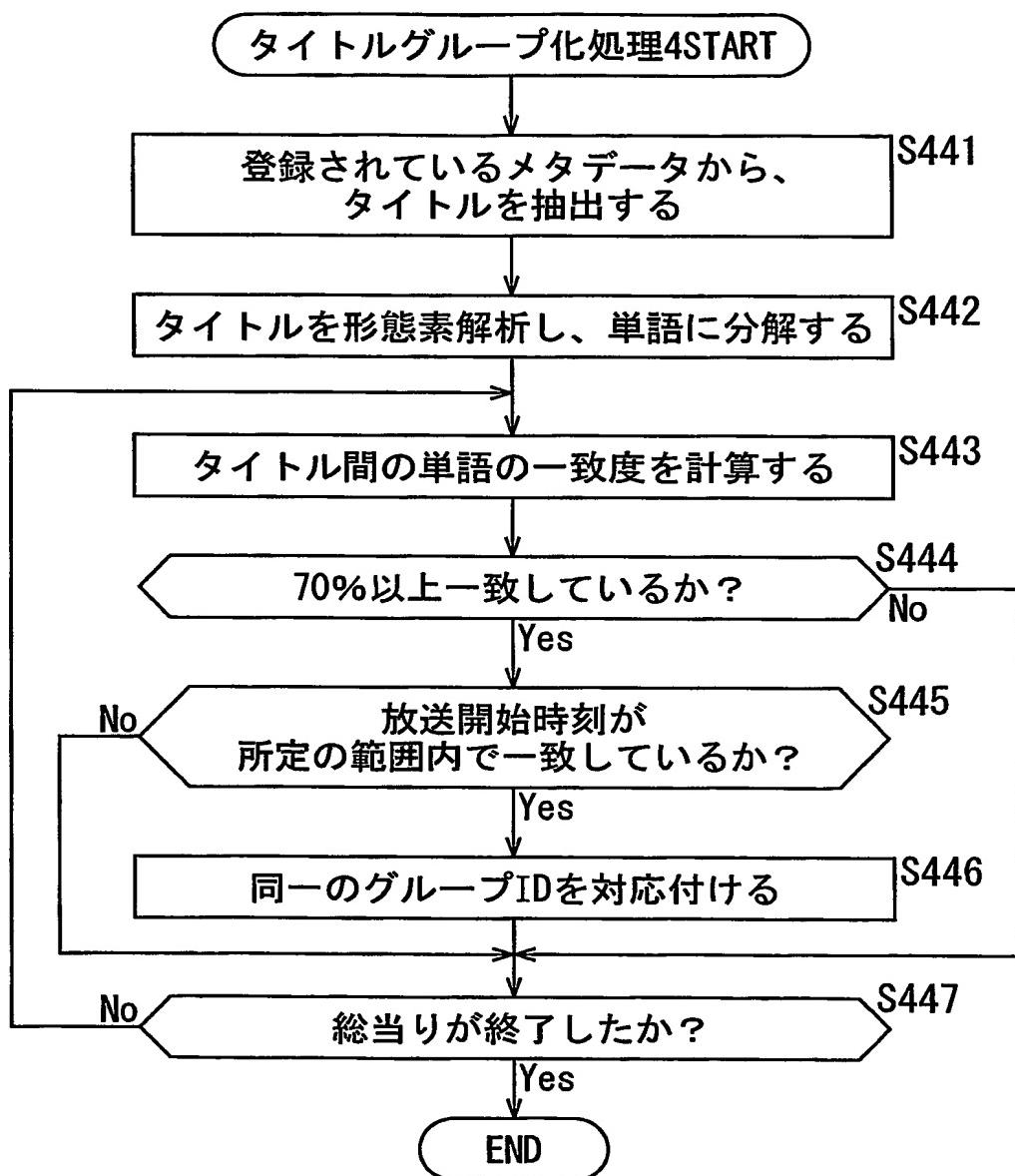
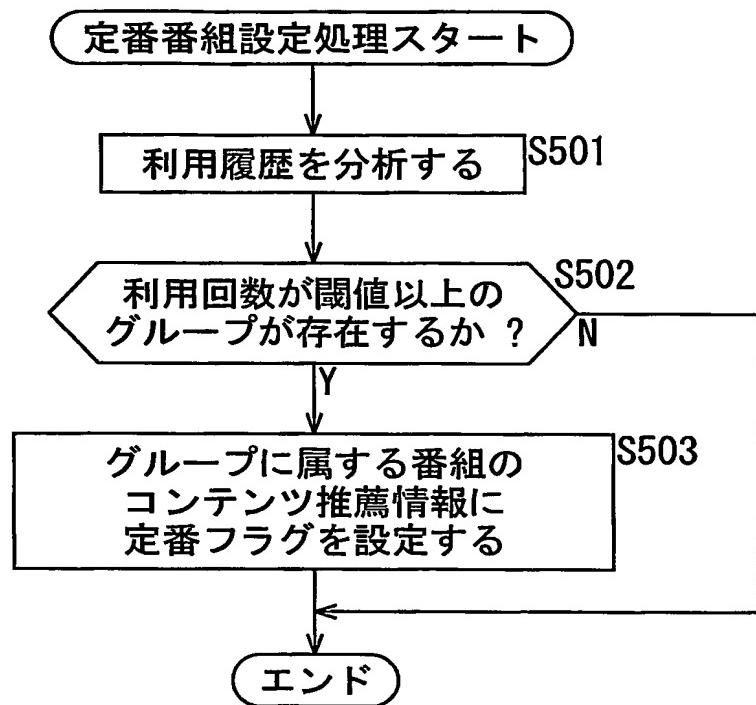


図21



22/32

図22



23/32

図23

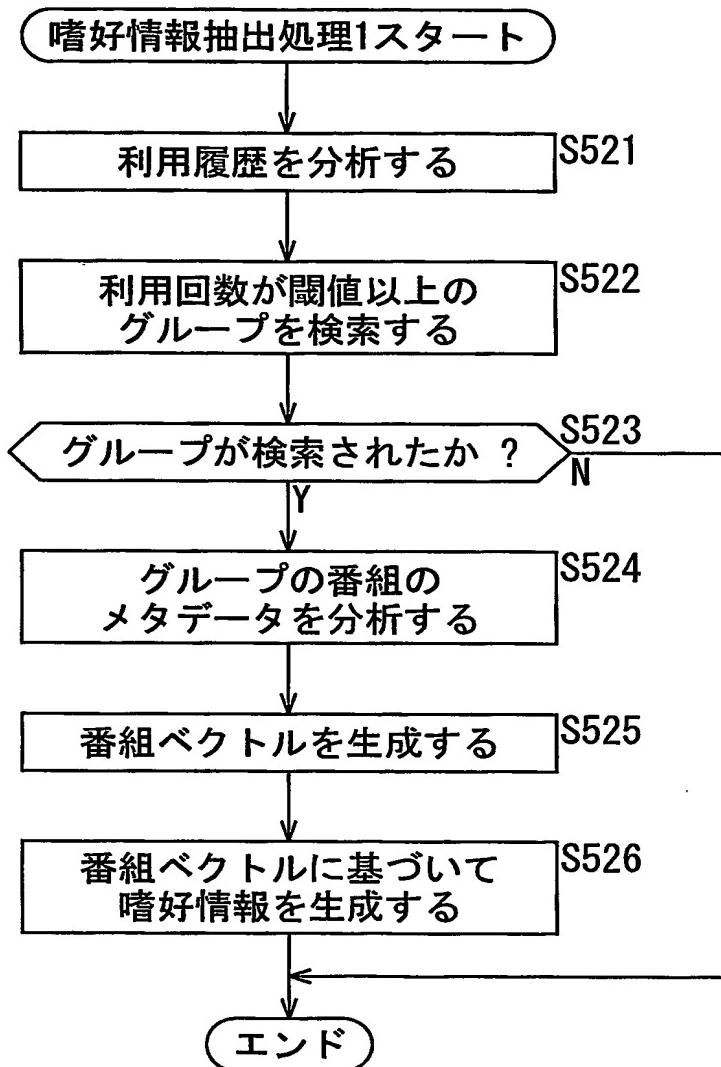


図24

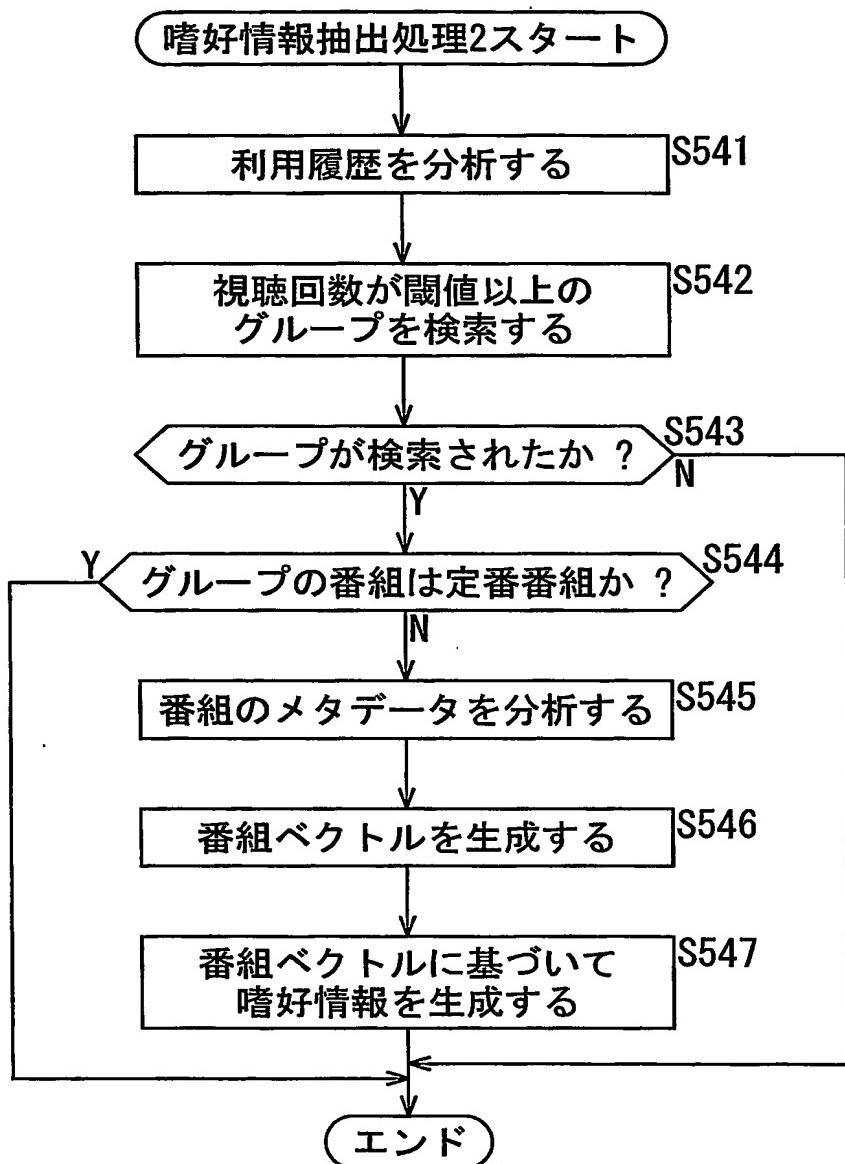
番組ベクトル	$PP = (Tm, Gm, Pm, Sm, Hm, \dots)$
T: タイトル (Title)	$Tm = \{Title\}$
G: ジャンル (Genre)	$Gm = \{\text{ドラマ}、\text{バラエティ}、\text{スポーツ}、\text{映画}、\text{音楽}、\text{子供向け} / \text{教育}、\text{教養} / \text{ドキュメント}、\text{ニュース} / \text{報道}、\text{その他}\}$
P: 出演者 (Person)	$Pm = \{person A-1, personB-3, \dots\}$
S: 放送局 (TV Station)	$Sm = \{\text{MHK総合}、\text{MHK教育}、\text{亜細亜テレビ}、\text{TAS}、\text{フジ}、\text{テレ日}、\text{東都}、\text{MHK衛星第1}、\text{MHK衛星第2}, \text{WOWO}\}$
H: 時間帯 (Hour)	$Hm = \{\text{朝}、\text{昼}、\text{夕方}、\text{ゴールデン}、\text{深夜}\}$
	:
	:

図25

嗜好情報	UP=(Tup, Gup, Pup, Sup, ...)
タイトル ジャンル	Tup={ (Title1-12), (Title2-3), ... } Gup={ (ドラマ-25), (バラエティ-34), (スポーツ-42), (映画-37), (音楽-73), (子供向(ナ/教育)-120, (教養/ドキュメント-3), (ニュース/報道-5), (その他-23) }
出演者	Pup={ (person A-10), (personB-43), ... }
放送局	Sup={ NHK総合-7、NHK教育-4、亞細亞テレビ-3、TAS-2、フジ-5、 テレ日-6、東都-0、NHK衛星第1-9、NHK衛星第2-1, WOWO-1 } :

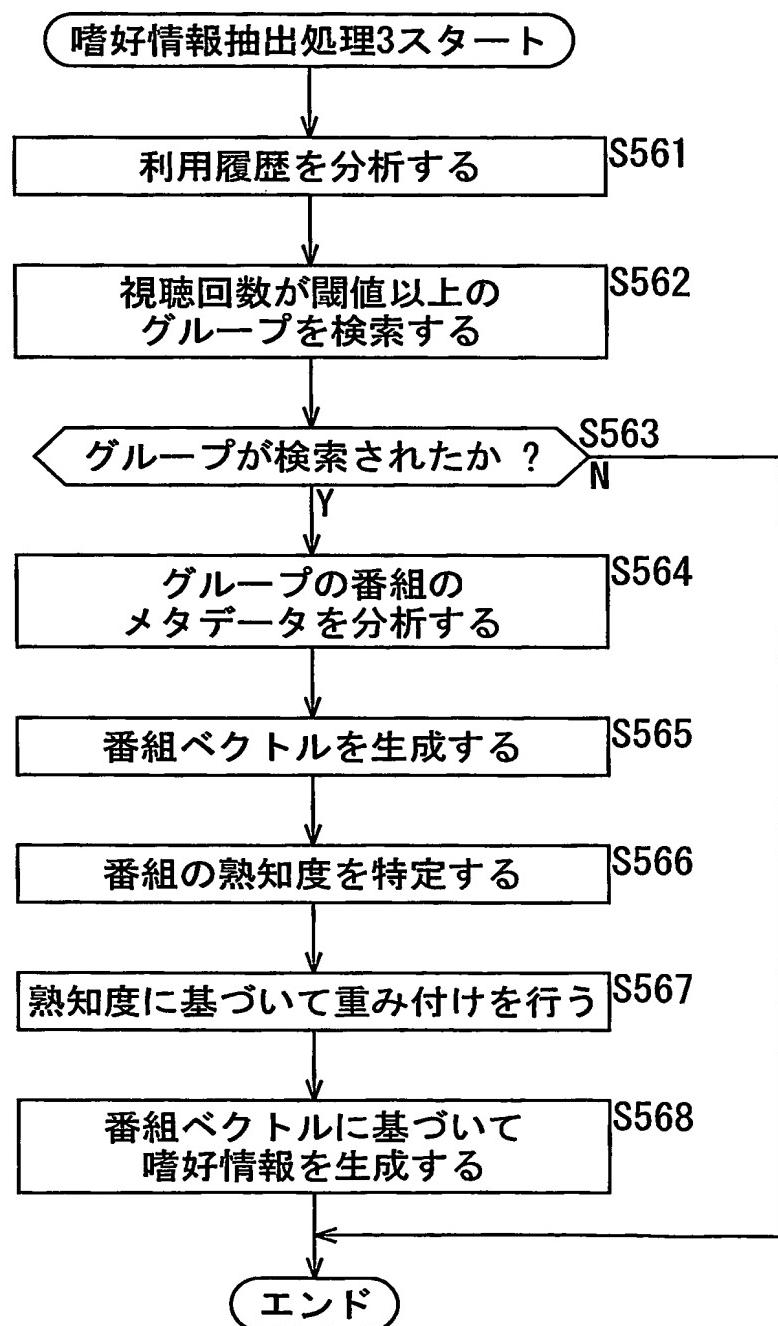
26/32

図26



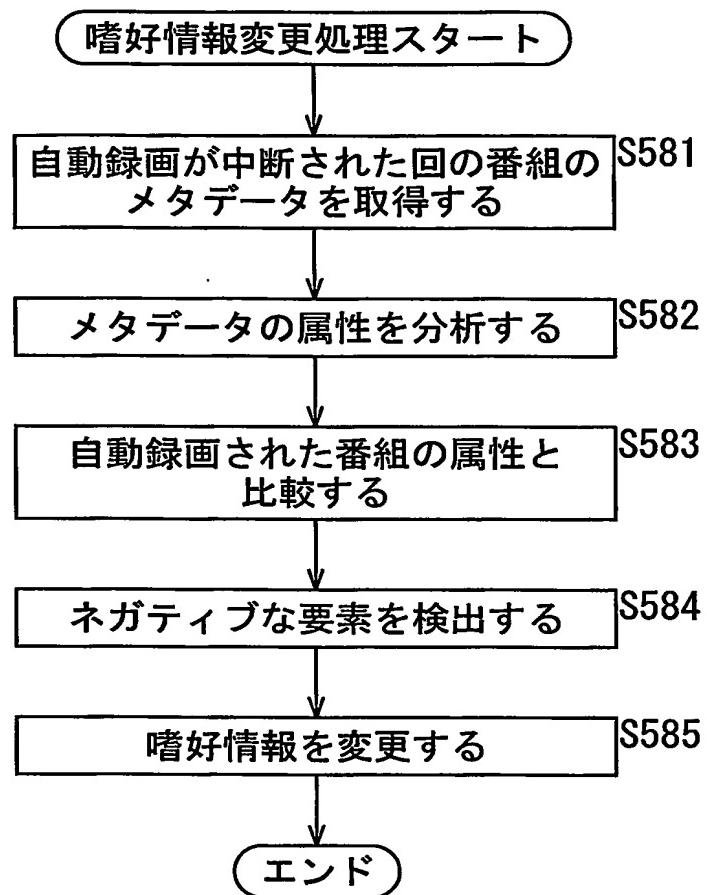
27/32

図27



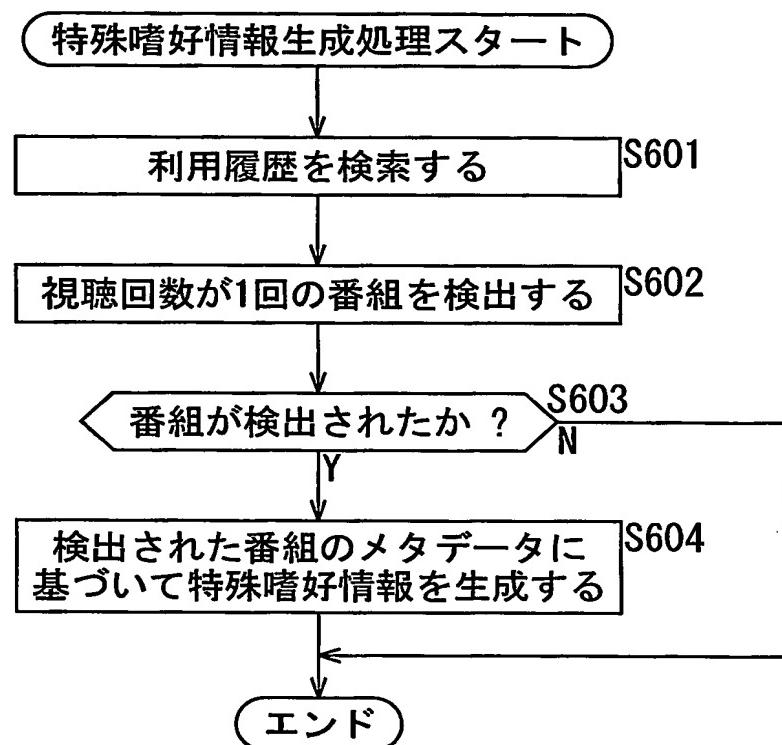
28/32

図28



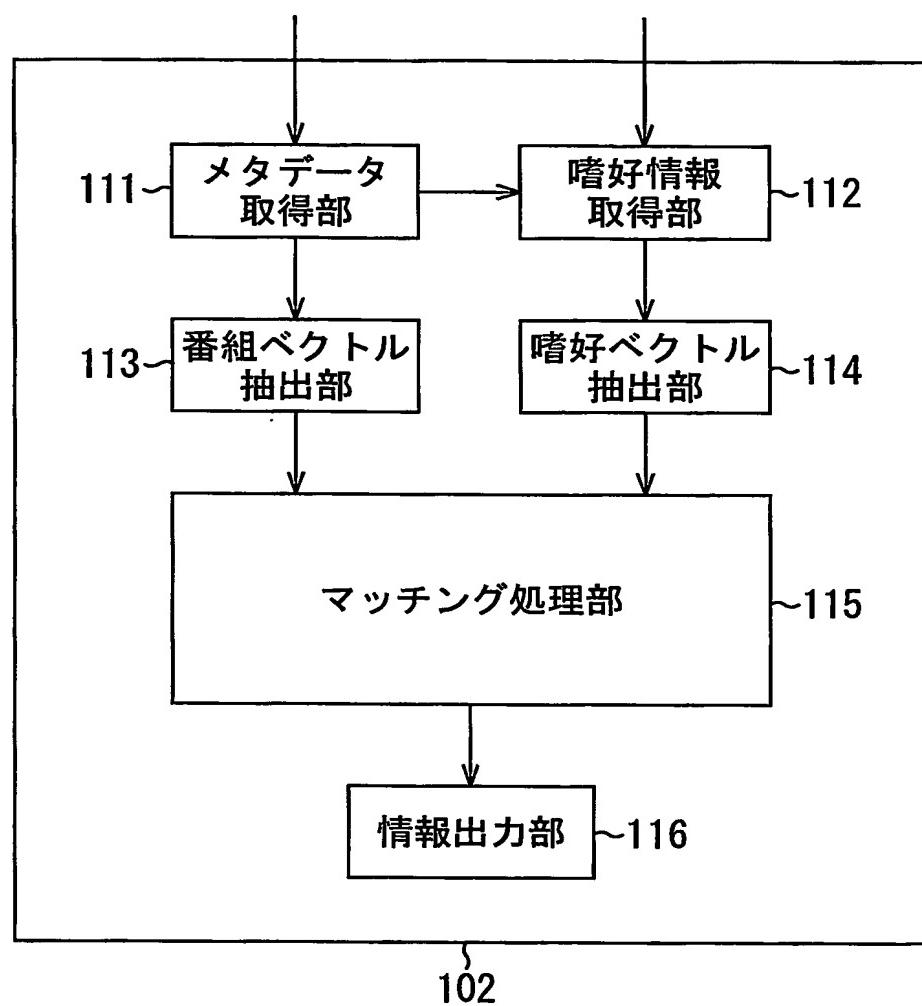
29/32

図29



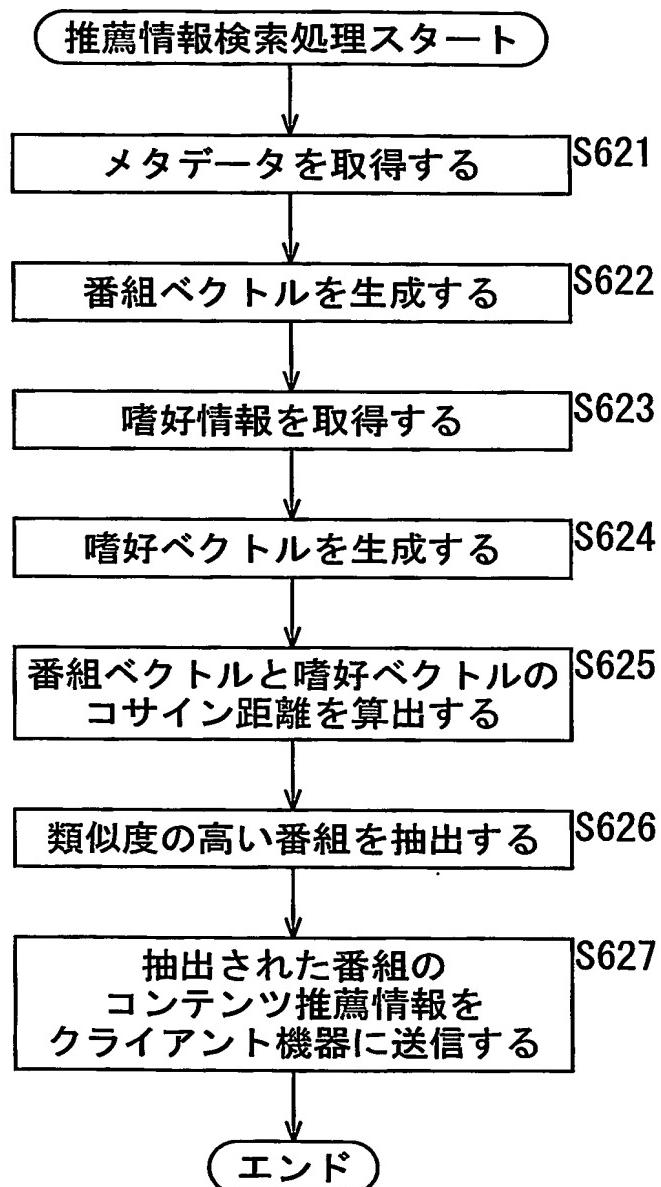
30/32

図30



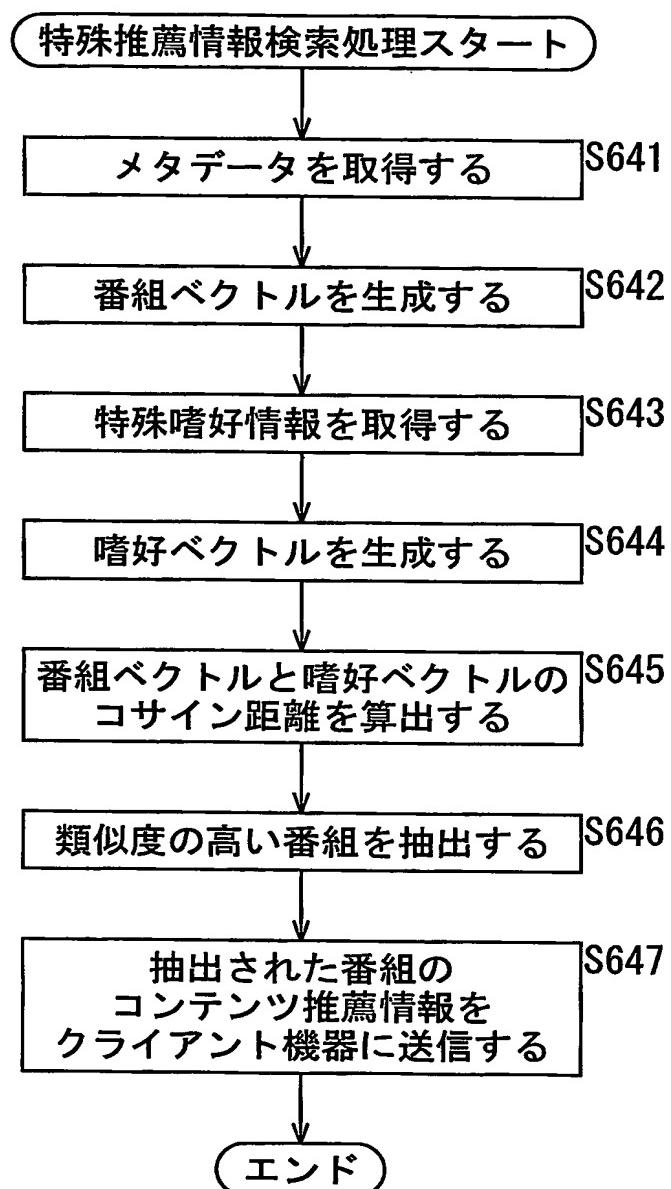
31/32

図31



32/32

図32



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP03/15927

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl⁷ G06F17/30

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
Int.Cl⁷ G06F17/30, H04N17/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
 Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2004
 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2004 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
JICST FILE (JOIS), WPI, INSPEC (DIALOG)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2002-320159 A (NEC Corp.), 31 October, 2002 (31.10.02), Full text & CN 1383328 A	1, 4, 7, 9, 10, 13-15
Y	JP 06-124309 A (Hitachi, Ltd.), 06 May, 1994 (06.05.94), Full text (Family: none)	2, 3, 5, 6, 8, 11, 12
Y	JP 11-196389 A (Kabushiki Kaisha Jisedai Joho Hoso System Kenkyusho), 21 July, 1999 (21.07.99), Full text (Family: none)	2, 3
Y	JP 11-196389 A (Kabushiki Kaisha Jisedai Joho Hoso System Kenkyusho), 21 July, 1999 (21.07.99), Full text (Family: none)	5

Further documents are listed in the continuation of Box C.

See patent family annex.

* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family
---	--

Date of the actual completion of the international search 20 January, 2004 (20.01.04)	Date of mailing of the international search report 03 February, 2004 (03.02.04)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office	Authorized officer
Facsimile No.	Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/15927

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2001-92832 A (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.), 06 April, 2001 (06.04.01), Full text (Family: none)	6,8,11,12

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C17 G06F17/30

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C17 G06F17/30 H04N17/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2004年
日本国登録実用新案公報	1994-2004年
日本国実用新案登録公報	1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

JICSTファイル(JOIS), WPI, INSPEC(DIALOG)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 2002-320159 A (日本電気株式会社), 2002. 10. 31, 全文&CN 1383328 A	1, 4, 7, 9, 10 13-15
Y		2, 3, 5, 6, 8 11, 12
Y	JP 06-124309 A (株式会社日立製作所), 1994. 05. 06, 全文(ファミリーなし)	2, 3
Y	JP 11-196389 A (株式会社次世代情報放送システム 研究所), 1999. 07. 21, 全文(ファミリーなし)	5

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)
- 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

20. 01. 2004

国際調査報告の発送日

03. 2. 2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

野崎 大進

5M 3042

電話番号 03-3581-1101 内線 3597

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 2001-92832 A (松下電器産業株式会社), 2001. 04. 06 全文 (ファミリーなし)	6, 8, 11, 12